

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・全般的に天候が良く、人の動きが活発になった。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年にない暑さで、各種夏祭りの人出が多く、若者向けの軽衣料、特に浴衣の売上が大きく増加しているほか、飲食店やゲームセンター、酒屋などが好調に推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・8月の前半は夏物商戦が続き、客の流れが順調であった。後半に入っても晩夏色の夏物の素材の商品が順調に売れており、いつもの8月よりも客の購買意欲が増している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今年は猛暑ということで、ビールや飲料水の販売量が伸びたため、売上もそこそこ増加した。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・天候が良かったこともあり、朝や夕方の来客数がやや増加している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量を3か月前と比較すると、4%程増加している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今年は久しぶりの猛暑であり、夏型商品の売上が大幅に増加している。ただし、8月中旬以降は前年並みとなっている。現在の販売量は前年に比べ増加しているが、景気回復によるものとは判断できない。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・今年の夏は、猛暑による季節商品の好調さと、オリンピック開催によるAV商品の伸長が全体の売上を引き上げている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売数は前年と変わらないが、高額車の動きが少し良くなってきた。
		乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・3か月前より受注量が上向き、前年超えが多くなってきている。客も店頭に来店することが多くなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・地区を問わず道内客が不振で、宿泊客数が前年実績を上回ることが困難な状況であるが、総消費単価が若干ながら上向いている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行の申込みが思わしくないものの、海外旅行の申込みが順調に回復している。
		観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの輸送人員が前年から1割ほど増加している。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・昨年と同時期と比べて、工事件数は確実に増えていると実感できる状況にある。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・暑さが続いたため、商店街では熱加工した商品の動きが鈍かった反面、喫茶店・コンビニ・酒店など水物を扱っている店舗では販売量が大きく増加した。しかしながら、これは一次的な現象で、本格的な景気回復にはまだ遠い。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・季節の変わり目でもあり、特売の反応も依然として慎重なものがある。まだまだ消費者の購買意欲は上がっていない。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街の客の動きや販売量をみても上向きとは言えない。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・8月上旬の気温の高い日が続いた週末までは、非常に夏物の動きが良く、販売に結びついたが、中旬以降は急激な気温低下によって急に秋物が売れ出すなど、秋物の動きが例年より早くなっている。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・客一人の買上個数は6.2個と、前年と比較して3ポイントくらい増加しているが、逆に客単価でみると2ポイントくらいダウンしており、厳しい状況が続いている。	
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・数年振りの猛暑により、アイス・ドリンク類等の涼味商材の売上が絶好調であったが、既存店ベースの全体売上高はわずかに前年実績を上回ったに過ぎず、買上点数については、従来同様低下傾向が続いている。	
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・天候が良いため、客がよく外に出ており、またアイス・飲料水等の購買も多々みられる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・一部で公共事業の動きもあるが、来客数に関しては3か月前とほぼ変わっていない状況である。
		コンビニ(店長)	競争相手の様子	・もともと同一地区に2店舗しかなかった地域が、現在は自社の新店も含めて6店舗まで増加しているなど、パイの奪い合いが激しくなっている。
		衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・今月は、客数が伸びないことに加えて、客の買い方も少額になってきている。
		家電量販店(店員)	販売量の動き	・洗濯機・薄型テレビ・DVDレコーダなどが、引き続きよく売れたほか、猛暑の影響でエアコンや冷蔵庫などもよく売れた。
		住関連専門店(営業担当)	単価の動き	・消費税の総額表示による値上がり感の影響を引き続き受けている。また猛暑は8月上旬まで続いたが、家電製品の売上が一段落しており、売上の増加にはつながらない。
		高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・オンシーズンに期待したが、観光入り込み数は前年比で10%減少している。客単価の減少と合わせて、売上は20%の減少となっている。
		高級レストラン(スタッフ)	お客様の様子	・ランチ・ディナー、個室のいずれも売上が前年を超えており、引き続き好調である。オリンピックが開催されて客不足が心配だったが、夕食客は予想ほど悪くなかった。本州からの観光客の入り込みが良かったほか、猛暑の影響で近隣のビール客が増えた。昼食では、冷たい飲物とカレーライスがよく売れた。
		一般レストラン(スタッフ)	単価の動き	・前月まで堅調だった客単価が、今月に入ってから再び低下している。前年に比べると4%程下回っている。
		観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・来客数の動きは前年とほとんど変化がない。6～7月は参議院選挙等がありマイナスだったが、8月は前年並みに回復してきている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・相変わらず個人旅行の動きが悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・8月は例年より暑い日が多かったが、30度を超す暑い日でもタクシーの利用は昨年より減っている。また、オリンピック開催中は、競技が日本時間の夜間のせい、夜のタクシー利用が極端に減っている。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・ここ数か月同業他社も苦戦を強いられており、景気上昇の気配がうかがえない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・8月は夏祭りやその他様々なイベントがあった。今年は天気も良く、人出は多かったが、タクシーを利用する客は期待ほどではなかった。
		美容室(経営者)	単価の動き	・売上も客数もいくらか減少している。
		住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・モデルハウスや展示場の来客数がほとんど増えていない。
	やや悪くなっている	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・8月はギフト需要として中元、また帰省を絡めての食品の動向が客の様子をうかがう基準として考えられるが、ここ一年の動きから判断すると、大幅に販売数量が減っている。中元は、一人当たりの贈答件数が絞り込まれており、全国的な景気回復傾向とのギャップが感じられる。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・化粧品、日用雑貨、寝装、家電、加工食品などは前年実績を上回っているものの、生鮮全般、衣料品全般で前年実績を下回っている。客数は前年実績を超えたものの、秋物商品の導入が遅れたことにより売上が減少している。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・客数は増加しているが、これが気温の効果なのか、本当に景気が回復しているのか、まだはっきりと分からない。向上する可能性は十分にあるとは思える。
		住関連専門店(従業員)	販売量の動き	・今期は売上が減少し続けている。
		その他専門店[医薬品](経営者)	お客様の様子	・いよいよお得意様の財布の紐が固くなってきたようだ。購買点数、品種が少なくなっている。また夏場の化粧品の落ち込みも痛い。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・今月はお盆休みが重なり、夏祭りなどもあったが、家族連れや友達同士の客が目立ち、自店のようなクラブは暇だった。
		観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・宿泊客数の減少が著しい。台風の影響もないわけではないが、夏休みシーズンの道外客の動きが鈍い。韓国・香港などからの海外客が増加しているが、国内客の落ち込みをカバーするまでには至っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・猛暑に加えて、オリンピック・沖縄ブームなどの影響で、熟年を中心に客の動きが低調であり、温泉への宿泊や東京の大型テーマパークなどへの旅行者は前年を大きく下回る。9月の動きも悪くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光客にしても、更には地元客にしても、タクシーの利用客自体が減少している傾向が相変わらず続いている。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・客の来店周期がやや長くなってきている。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・来客数が減少傾向にあり、販売量が減少している。更には単価の低下もみられる。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・今月の月初めは暖かかったせいか観光客も少し来店したが、8月の半ばを過ぎると逆に悪くなった。
企業 動向 関連	悪く なっている			
	良く なっている			
	やや良く なっている	食料品製造業(団体役員)	それ以外	・予想を上回るオリンピックの成果や、甲子園で北海道代表校が初めて優勝したことなどは、北海道の経済効果を上昇させる要因となった。また、8月は各地域で祭典やイベント等が数多く開催され、観光客や入場参加者が非常に多く、消費動向が期待された反面、消費単価は低いままであった。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・最近では個人需要の増大に加えて、オフィス家具等の法人需要も増えてきた。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・在庫は多少、増加傾向にあるが、今月も先月同様に、鋼材・建材等が順調な入荷となっている。本州の好調な景気に支えられ、道内から本州向けの建材等の輸送も順調に推移している。また中国・東南アジア向けも現在のところ好調に推移している。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・飲料関係の製品や資材の輸送が前年を上回っている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・先月に引き続き、受注量が増えている。中期的なコスト削減を目的としたものが多いが、今まではそれにかかる初期投資を嫌って、検討が後回しになっていたため、上向き気配を感じている。
	変わらない	出版・印刷・同関連産業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・依然として受注価格引き下げ要請が強い。
		金融業(企画担当)	それ以外	・設備資金は低調である。中国特需の恩恵も乏しい。燃料費、飼料など、原材料価格の上昇は運輸業・建設業をはじめ多くの業種で収益圧迫要因となっている。
		司法書士	取引先の様子	・先月は不動産取引において多少上向き傾向を示したが、今月は以前と同じように低めに推移している。住宅の建築着工も低い水準を維持している。
	その他サービス業[建設機械リース](支店長)	受注量や販売量の動き	・ここにきて受注状況が足踏みしている。	
	その他企業[コンベンション担当](従業員)	受注量や販売量の動き	・個人客の動きに変化はないが、法人需要が動かない。	
	やや悪く なっている	金属製品製造業(統括)	受注価格や販売価格の動き	・材料費の価格は昨年より何割も上昇しているが、それを販売価格に転嫁できない。逆に販売価格は企業間競争で落ち込みが激しい。
	悪く なっている	-	-	-
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・基幹産業である農業の生産量アップとともに、第二次加工も含めた求人広告受理件数が、お盆明けから増加している。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・卸売業を除く全ての業種で求人数が前年を超えている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・卸・小売業、飲食業で求人数が微増している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	新聞社〔求人広告〕(担当者)	雇用形態の様子	・野菜選別などの季節要因で雇用状況が改善しているが、依然としてパート・アルバイトが多い。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から8%ほど減少しており、今年度に入ってから3か月連続で減少している。またパートや派遣求人の割合も高まっている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年に比べて4%増加しているが、パート求人が全体の4割を占めており、正社員を希望する求職者にとって厳しい雇用環境にある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、就業地が道外の求人が多く、地元就業が伸びていない。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-

2. 東北(地域別調査機関:(財)東北開発研究センター)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		百貨店(売場担当)	お客様の様子	・8月に入ってから、来客数が多く、お盆を過ぎても客足が途切れていない。そのため前年水準もクリアしている。
		スーパー(店長)	単価の動き	・先月に続き、高気温、好天に恵まれ夏物商品の動きが好調である。しかし買上げ点数は依然として前期比98%の水準であるが、7、8月と2か月連続で一品単価が前期比100%と回復しており、これにより売上前期比は100%を維持している。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・客数と買上げ点数が増加傾向にあり、かなり景気が上向いている印象である。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・7.13水害の影響もあり、特需もあった。それを割り引いても前年に比べて販売台数は堅調。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・以前に比べ1~2か月後の予約が増えている。秋口のレストランウェディングやコンサート等といった団体予約が増えている。しかし個人予約はまだ少ないのが現状である。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・お盆の帰省客や、東北夏祭りタイトルの団体客が多かった。しかし台風により来客が激減した日もあり、期待したような結果とならず、予想の80%というところである。
		住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・展示場来場者数の伸びが良く、半年以内の着工希望の相談者数も多く、受注に即つながらるような顧客が多い。
	変わらない	商店街(代表者)	来客数の動き	・気温が極端に高い8月であったが、それに併せてオリンピックの関係で、客足が極端に少ない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・暑い夏は小売業にとって追い風とはなっておらず、むしろ外出が減っているような気がする。一部の業種、水物等の飲食を除いては、去年より悪い実感である。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・好天が続き、飲食、青果物関連が売上好調を示しているが、郊外型量販店の影響で百貨店や衣料品店の伸びがいまいちで、全体の足を引っ張っている。
		百貨店(売場主任)	販売量の動き	・気温の高い日が続く、婦人秋物の動きが悪い。
		百貨店(売場主任)	販売量の動き	・オリンピックが始まってから、夕方の客の引けがとて早くなっている。返礼等のギフトを購入する客はそれなりに来店しているが、販売量は少ない。また外商の大口ギフトの注文が非常に減少している。
		百貨店(企画担当)	それ以外	・例年であれば、旧盆明けの8月後半の半月は、客数が落ちるが、今年は客数が落ちないで推移している。しかし買上げには結びついていない。
百貨店(企画担当)	販売量の動き	・天候は暑かったが、当県は台風の影響による2日間での売上の落としが響いている。また近隣に競合する食品スーパーが出店し、やや押され気味である。全国的には景気が回復しているようだが、あまり良くなかったという状況である。		
スーパー(経営者)	販売量の動き	・客数は回復しているが、生鮮食料品に買上げ個数の減少が見られた。ただしドリンク関係、アイス、ビール等の伸び率は著しい。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・今年の夏は暑い日が続き、アイスクリームや飲料関係が好調に動き、来客数も増えたが、単価は概ね横ばいであり、あまり変わっていない。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・食品販売に関しては、7月からの猛暑で近隣購買型となり、当社のようなローカルスーパーでは夏型商品の動きが良好で、売上は順調である。しかし、これは昨年との比較においてであり、例年から見れば極端に良好とはいえず、販売点数等に変化はない。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・今年の猛暑に加え、売上商品の変化と、その変化に対応できていない分があるため、売上が増えても利益が出ないという状態である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・8月前半は、猛暑のため飲料、ビール、殺虫剤等の需要が多かったが、お盆終了後びたりと止まり、落ち込み方は平常よりも大きい。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・4月に1km圏内にオープンした競合店の影響は、現状3か月過ぎても横ばい状態である。客数は前期比98%、客単価で前期比98%である。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・全体で6%程度昨年より客単価が低下している。総額表示後客数は戻りつつあるが、売上はとても厳しい状況である。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・今年の夏は、猛暑であり水物やアイスの売れ行きが良かったが、これから台風シーズンに入るため気候変動が分からないので、景気はこのままで推移する。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・売上自体は前年並であるが、昨年は冷夏であり、それと比較して猛暑の今年がほぼ同等という状況である。中身を見ると客単価の低下が顕著であり、こうしたところから景気が良くなっているとは思えない状況である。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・販売量の動きと回答したが、昨年と比較して天候に恵まれていることである。CVSの基幹商品は昨年並みで、売れているのは飲料などだけである。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月前半は猛暑により、飲料やアイスの販売が急激に伸びたが、お盆以降は台風等の影響で売上は伸び悩んでいる。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・全体的な景気の動きとしては変わらないが、8月半月で見ると来客数の減少が大きく、3か月前より悪い。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新発売のコンパクト車や、ガソリン価格の上昇で低燃費車はまずまずの受注を見ているが、その他ミディアムクラス以上の高価格車の需要が極端に鈍くなっており、結果として車両単価および獲得利益が低下している。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・輸入車販売では、従来6～7月は3～4月に次ぐ、販売台数が期待できる時期であるが、今年は期待通りに伸びない。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・夏季の猛暑で仕事量が冷夏時の4倍ほどに増えると期待していたが空振りに終わった。お盆を境に残暑も無く伸び悩む。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	お客様の様子	・給料や年金が下がり、残金を見ながら買い物をしており、無駄な買い物はしなくなっている。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・この夏は猛暑だったが、ここにきて夏物の割引商品の動きが悪くなってきた。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	競争相手の様子	・各業者間ではお盆明けから売上や受注が一気に無くなっている状態との話がよく聞かれるようになった。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	販売量の動き	・全体的な酒類業界の動きは安定してきてはいるが、清酒関係は少なくなっており、プラスマイナス0ということであり、先行きは見込めないような状況である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・7月に比べ8月は猛暑が販売量に寄与していない。お盆以降の販売の落ち込みが大きく前年比で若干のマイナスである。また、タイヤ等の油外商品の販売が低調に推移している。洗車等前年の販売金額を維持することが困難になってきている。背景には原油高で来月からの販売価格の上昇が避けられないことがあり、法人客を中心に、節約モードが高まってきている。
		その他飲食〔そば〕（経営者）	単価の動き	・毎年8月は、来客数、単価共に落ち込むが、今年は特に変化なく推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	販売量の動き	・今月は夏祭りがあったが、当市の夏祭りの観光客が減少し、その分が同じ県内の他市町に流れており、県全体としては入込み客数に変化がないため、売上も県全体としては変わっていない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・今年は、年明けから顧客数が減少傾向だったが4～7月は-30%と史上最悪の落ち込み状況だった。8月になって落ち込み具合はやや改善したが、それでも前年比で10%以上落ち込んでおり景気が悪い状況は相変わらず継続している。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・今年の夏は、商工団体の東北大会があり、その分動きが良いかなと思っていたが、終了してみれば東北大会参加人数が増えただけであった。かなりの暑さで料飲部門での売上増を期待していたが、期待の程ではなかった。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全体的に市場の厳しさにより、婚礼関係が苦戦している上に、宿泊、レストラン関係についても依然として利用者数が前年割れしており厳しい状況である。特に価格競争については限界点に近いところにあり市内の各ホテルでも悪戦苦闘が続いており、損益分岐点を引き下げてもそれ以上に売上が減少しており、収支が均衡してこない状況である。
		タクシー運転手	販売量の動き	・とにかく客が少ない。特に夜間は0時を過ぎる極端に人影が少なくなる。全社的に見ても1～7月のすべての月で前年比5～10%の売上ダウンである。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客は経費削減の話題には熱心に耳を傾ける。また料金の割引率に関しても他社との比較に熱心であり、新規加入については入札するケースも出てきている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・8月に入り、やっと客が戻ってきている。入場者数は昨年実績に追いついたが、館内での客単価は伸びない。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・昨年の低温長雨やサーカスの興行に対し、この夏は天候がまずまずで効率化したイベントも功を奏した。売上は一昨年には7%程度及ばないが、昨年よりは約20%増となった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・実数的には昨年より急激に落ちている。オリンピックの逆効果なのかボーナス出た後も、引き続き繁栄が起きていない。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・前年並み、3か月前並みの受注を維持しているが、これは住宅ローン減税駆け込み的特殊要因によるもので、本来の勢いはやや弱さを感じる。
	やや悪くなっている	百貨店（経営者）	単価の動き	・今年は猛暑で、特にアパレル関係は単品が多く客単価が低い。食品関係も水物中心で生鮮産品が少し落ち込んでいる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・お盆以降に気温が低下し、夏物商品が急激にストップしている。秋物商品でその低下分をカバーできない状態が続いている。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・今月は売上構成比の一番高い中旬の低迷が月末まで響いた。商品群別に平均一品単価を見てみると、生鮮部門では精肉と惣菜が前年より10%強低下し生鮮全体でも前年より7.6%落ちた。加工食品も前年を1%割り込み、食品全体では前月よりも更に1%、前年よりも4.3%低下した。食品で単価が前年を越えたのは米と飲料だけだった。買上げ点数も既存店で前年比をクリアしてはいるが、前々月、前月と次第に買上げ点数の伸びも落ちてきて、客数も同様の傾向が顕著に現れ出した。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・8月の中旬からオリンピックが始まり、深夜の客が減少しているため、やや悪くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・猛暑、残暑の暑い夏であり、夏物処分セールをしているが、客は慎重な品選びをしており、余計なものは一切買わないため苦戦しており、春よりも悪くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今年の夏は、久しぶりの猛暑で暑い日が続いたが、客数が減少している。また年間最大イベントの夏祭りでは、曜日の関係で観光客など外来者が減少している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・冷夏だった昨年と比べ、客が増えると予測していたが、お盆前後から客数が低迷している。帰省等の費用もあつたりで服に対する消費が冷え込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・異常な暑さの為か、来客数も少なく、夏物の最終セールの反応も、あまり良くなかった。それに加えて、秋物の立ち上がりに対する客の反応が、例年に比べて遅い。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・目的買いが主流であり、予算にシビアになっていて即売上につながるような商談がない。また長い目で見なければならない状況である。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・今月は一般の会社関係の団体が全く無く、辛うじて官庁関係の各県持ち回りの団体があっただけである。そこで個人客で客室を埋める状態となり、週末客室が空くという未だ経験した事の無い事もあった。ゆえに客数も伸びず宴会の数も少なく、最終売上は前年を下回る。また今年は館内のプール利用も昨年の50%程度。オリンピックのため昼も夜も以前のような賑やかさが無い。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・4月から8月までで、予算が前年をクリアした月は4月だけである。各ホテル間の連絡会議でも全ホテルで軒並み前年を下回っている。比較的予算の低い上半期に赤字は必至の状況である。
企業動向関連	悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・競争相手、小売店との対話からも来客数の減少に歯止めがかからないという事である。
	良くなっている			
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・昨年の夏とは大きく異なり、猛暑であるため、今までダメだった桃が甘くなり、注文も多く、販売価格も例年より高く、良い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は輸出が好調で、計画を上回る水準で推移している。携帯電話用部品は、横ばい状態である。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・売上そのものはあまり変わらないが、顧客からの引き合いは3か月前から比べると増えてきている。契約になるかどうかは未定であるが、今後、期待できる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小企業に対する金融機関の対応が積極的になっている。以前であれば融資の対象からはずれても仕方がない取引先にも、融資への途を拓こうとする金融機関の姿勢が強くなっている。
		公認会計士	受注量や販売量の動き	・電子部品製造5部門のうち、4部門の売上が予算比155%と好調に伸びている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	競争相手の様子	・夏物衣料やエアコン等の季節商品の動きが好調に推移している。
	変わらない	繊維工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・秋冬物の最盛期に当たるが、受注量、販売価格共に大きな動きがなく、依然として低い水準で推移している。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・現在の引き合いがピークであると考えている。売上は前期比25%ほど増となっているが、利益は前期と変わらず、材料費の値上り分を吸収できないでいる。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・猛暑の影響で、関連する小売業は好調に推移し、電子部品産業を中心とする製造業の一部も好調さを保っているが、住宅着工件数の前年割れや公共工事の受注減少等の悪影響もあり総じて低迷が続いている。
		広告業協会（役員）	それ以外	・レジャー費支出が減ったためか夏休みの行楽地はどこも空いていた。混んでいたのは近くの500円銭湯など料金の安い施設だけだった。また、個人の可処分所得が減っていることでギャンブルなどに回らなくなり馬券、車券、舟券売り場の出先も大幅に売り上げを落としている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらずの不振が続いている。猛暑は清酒にとって味方にはならない。焼酎は相変わらずの品不足、ビールでは利益が取れない。
		その他企業〔管理業〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・受注量が多いが、販売価格が安いので利益が出ない。社員は休日出勤や時間外があるため、それほど悪い状況ではない。
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税総額表示以降、消費の落ち込みが受注面にも現われており、かつスーパー等からは消費税分の値引き要請が出ており、厳しい。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・専門工事業の当社をはじめ、ほとんどの同業者が昨年よりも受注を減らしている。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の小口化で、売上高や利益が上がらない。また来客数が若干少なくなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品の動きが少なく、商談件数、受注件数が少ない状態である。コピーサービス業務は8月に入り、仕事量が激減している。来店客も減り、購入単価も低下している。
	悪くなっている	食料品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑のためスーパーやコンビニ等の小売店での商品の動きが悪い。そのため前年比5%程度のダウンである。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・8月16日に開所したメガバンクの法人営業所では、所員8名の内派遣社員（審査のベテラン社員も含み）が6名での立ち上げである。このような雇用形態が速度を速めており、業界として上向きである。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・企業との関係構築に力を入れたおかげで他社競合がないものや、競合があっても信頼で選んでくださる企業が増えており採用者数も以前に比べると確実に増している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・特にプログラマー募集の求人が3か月前よりも増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月の求人数の動きは前年比で10～15%程度上向きである。暑い夏が続き、家電や飲料を中心とした流通に動きがありアルバイト等の対応が増え、あるいは社員募集も増えていることが原因である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告件数が3か月前に比べ、47%増えているが、県外企業の求人である。
		職業安定所（職員）	それ以外	・求人数と就職数の増加、求職者数の減少、デジタル家電製品の需要が伸びている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は、業種によりバラつきはあるが、サービス業を中心として増加で推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が3か月連続で上昇し、前年比の求人数は10か月連続で前年を上回っている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、常用、パート、臨時共に増加しており、中でも卸小売業やサービス業を中心にパート求人が著しく増加している。一方求職者は事業主都合離職者の減少が大きく、2か月振りに減少している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・登録希望者数が低迷している。同業他社も同様のようである。40歳以上の高齢者、25歳以下の職歴不足者は依然として多数存在するものの、最も必要とされる層は枯渇している。逆に言えば、就業機会は潤沢ということになる。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・派遣依頼数は前年比120%と好調であるが、登録者数が前年と比べても横ばいの状況で、先々の業績に懸念材料が出ている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は昨年に比べて伸びているが、伸び幅が一進一退である。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は前月比、前年同月比で横ばい状態であるが、就業場所が県外や遠隔地であったり、また雇用期間が有期である等で、希望者があまり出ないのが現状である。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・求人の増加傾向は続いているが、特定の業種、職種に偏る傾向がありミスマッチを解消する方向には作用しておらず、条件面での改善にもつながっていない。	
	やや悪くなっている			
	悪くなっている			

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・猛暑ということもあり、盆を中心に前年の数字を大きくクリアしている。大規模な競合店ができたが、今のところは良い調子である。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・厳しい暑さなので商店街を散策しながらの買物をする人が少なく、目的買いが主で衝動買いがない。商店街を中心に行う祭りの人出は例年より多いが、買物は少ない。露店の店への客は多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・猛暑が続いて、夏物クリアランスや暑さ対策商品の日傘、帽子、UV対策の手袋や化粧品の売行きが好調である。
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・競合店が5月末で閉まり、それ以降昨年、一昨年と比べ、来客数、売上とも2けたの伸びを示している。新規の客を固定客とするため、欠品には気をつけている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・夏物最終処分が、残暑のおかげで、比較的好調である。また、オリンピック選手、特に女性選手の活躍は客を晴れの気分させ、若干消費の刺激となっている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・広告方法を変えたら、かなり販売台数が出るようになってきている。単価が安ければ売行きはより好調となるところだが、輸入販売で、あまり安くはない。それでもこの2～3か月の売行きは好調である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・帰省客の影響もあり、盆までは良く、盆過ぎは一段落である。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・オリンピックの影響もあるが、デジタル加入者が多くなり、通常加入と比べてその分単価が上がってきている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・冷夏で客足が少なかった前年に比べ、本来の夏らしい天気となった今年は多くの客を期待していたが、盆の曜日まわりが悪かったのか、客足は伸びず景況回復感がない。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・盆、納涼祭などあったが、酷暑ということもあり、街中では落ち着いて買物をしている。金メダルの活気が出てくれれば良いと期待しているが、オリンピックの影響はないようである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・夏物クリアランス商品の動きもまあまあで、初秋物も若干動き始めており、前年実績100%を維持している。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・3か月前も前年の売上をクリアできていなかったが、今月も前年比90%台前半と、売上は上向いていない。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・来客数は減少していないが、1品単価及び買上点数が落ち込んでいる。
		スーパー（統括）	単価の動き	・来客数は依然伸びているが、一点単価の落ち込みが続いている。記録的な猛暑で飲料、アイスクリーム、加工食品等が好調であり、Tシャツ、ショートパンツを中心とした低価格の衣料品も点数を伸ばし、前年実績を上回っている。ギフト需要は、お届けは横ばいであるが、ビール、乾めんなどの持ち帰りが大きく伸び、前年同期比で6%増となった。菓子、ベーカリー、水産は2～3%減と苦戦を強いられている。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・今年は非常に暑い夏で、商店街への客はめっきり減り、動きがない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・8月前半はオリンピック需要で映像関連が良く動いたが、月後半は販売量が減少し、総じて変わらない。
		その他専門店〔携帯電話〕（営業担当）	販売量の動き	・6、7月のボーナス商戦以降も販売台数は意外と順調に推移している。
		高級レストラン（店長）	販売量の動き	・来客数は多少増加しているものの、ランチタイムのみで低価格商品が多く、売上増にはつながらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊は、前年の2割強マイナスである。婚礼は競合店の進出で、仮予約までは入るが成約までいかない。集会、宴会の単価も依然として低いままである。
		旅行代理店（営業担当）	単価の動き	・季節変動も含め、来客数がやや増加しているが、価格は依然として低迷しており、売上増にはつながらない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・盆の里帰りなどで14～15日の2日間は客が多かったが、その後は週末でも動きが悪く、売上は前月と変わらない。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・客の入込みは例年並みであるが、自分の別荘等で飲食する客が多く、レストラン、ホテルの売上は例年をやや下回っている。
遊園地（職員）	来客数の動き	・かなりの入込みが期待された最終週の週末に台風の影響を受け、8月全体での来客数は前年比で微増程度となっている。新アトラクション導入による首都圏でのパブリシティ獲得は、大きく集客に貢献している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・酷暑の夏であったが、標高が高く、涼しさで営業できたので、来場者数の減少はない。周辺コースとの料金バランスでプレー代が下がり客単価が低下したが、レストランや売店の飲料売上は上昇している。
		ゴルフ場（副支配人）	お客様の様子	・猛暑で入場者が減少したものの、秋口の引き合いがあり、若干上向きである。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・猛暑で来客が減少し、売上が下がった前月と変わらない。月の中でも売上の悪い日は極端に悪い。単価の高いパーマは長時間いすに座るといふこともあり、猛暑では客も敬遠気味である。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・客の売掛金の回収がまた悪くなっている。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・2～3か月前と来客数は変わらず、小さい物件が多いので単価が非常に安い。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・同業者でも建設会社の営業担当の話でも、忙しいがそうでないか、仕事の有無がはっきりと分かれている。中間をとると普通である。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・一部の地域では、地価の下げ止まりが認められるが、いまだに街中では下がり続けている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・引き合いが増えてきたものの、なかなか成約には至らず、相変わらず苦戦している。空き事務所の状況は変わらないが、店舗等は積極的に埋まってきている。
		やや悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き
	百貨店（売場主任）		来客数の動き	・猛暑が続き、来客数の動きが非常に悪くなっている。紳士物はスーツ主体のため、この暑さでなかなか購買がない。
	スーパー（経営者）		それ以外	・来客数は前年並みであるが、野菜類の安値が続いていることやお盆商戦の果物ギフトの売上減などから、客単価が前年比3%ダウンの状態となり、全体での売上も前年比3%減となっている。
	乗用車販売店（従業員）		販売量の動き	・メーカーの問題で特殊な状況下にあることから、新車購入希望での来客数、販売台数は前年比50%に落ち込んでいる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）		単価の動き	・原油高、ドル高のため、9月からガソリンが大幅値上げとなるが、売価への転嫁が遅れ気味なので、景気はやや悪くなっている。
	スナック（経営者）		来客数の動き	・オリンピックが始まってから人通りがぐっと減り、普通に入ってくる客がほとんどいないような日が何日あり、今は極端に厳しくなっている。
	悪くなっている	都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・官公庁からの利用が極端に少なくなっている。一般企業等も夏場に単価3千円程度の生ビールフェアが出たが、5～6千円となるとやはり激減する。会議等があってもその後の宴会等がない状況である。
設計事務所（所長）		販売量の動き	・新規の依頼物件がなく、現在手掛けている物件が終了した後、仕事に来る保証がない。同業者や建設業者からも受注物件が少ないと聞いている。	
商店街（代表者）		来客数の動き	・猛暑もあり中心街の人通りが常に閑散としている。街中といえないような状態が続いている。	
一般小売店〔衣料〕（経営者）		販売量の動き	・学生服を取り扱っている関係で、新学期の始まる8月下旬は例年少し動きがあるが、今年は動いていない。また、店の前のスーパーが9月25日までで休業することが決まり、経済の悪さが足元まで来たという印象を受けている。小さな町の商店街の灯が消えたようになるということで、大変な問題になりつつある。	
コンビニ（店長）		競争相手の様子	・8月後半は非常に気温が低く、いくつも台風が来ているので、売上が上らず、非常に悪い。	
衣料品専門店（販売担当）		販売量の動き	・来客数はあまり変わらないが、客は買物をしない。世間話をしたり、茶を飲んで時間をつぶすようなことがあっても、購入には至らない。暑すぎるということもあるだろうが、経済環境が良くないという証である。	
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・5月以降受注が前年比で10～15%程度伸びており、8月は20%弱の伸びを示している。景気は持続して良くなっている。
	やや良くなっている	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・販路拡大により、受注が通常の1.5倍となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（営業統括）	取引先の様子	・各メーカーとも、早生物の新種ワインの動きがわずかに良くなってきている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連がけん引し、受注が増加している。特に海外が好調で、納期が忙しい仕事が多い。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月の期末を控え、親工場は注文が非常に多く、今現在注文を断っている状態である。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・猛暑の影響でドラッグストア、衣料品店の売上が好調で、両業界は競争も激しいことから1～6月のチラシ出稿量が20～30%増加している。8月全体のチラシ出稿量は98%と前年を下回っているが、これは小売業を始め、チラシ出稿日にかかわる曜日の関係での減少とみている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年に比べて受注量の動きが鈍い。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き高水準での受注量を確保している。一部の工程では当社の加工能力以上の受注量を抱え、注文をこなさきれない状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関連企業は多忙で順調のようであるが、他の業種は非常に厳しい状況が続いている。コストも低いまま変わっていない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この2～3か月はずっと良い状態が続いている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・7月の猛暑により、家電、飲料水の物量が好調だった分、8月は少し落ち着き、前年並みの稼働となっている。
		その他サービス業〔放送〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・サービス業、流通業を中心に新規のスポットコマercialが出てきているが、大型店等の進出により、既存の商店街、スーパーからのイベント受注が大幅に減少している。総じて変わらない。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6～8月がピークなので9月以降は落ちる一方である。また、知人の会社が8月25日に自己破産している。景況は良くない。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・シンプルなデザインで低価格の物は売れているが、中級品は売れない。購買意識が宝飾品から離れているようで、7～8月と売上が低迷している。
		不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・入居しているテナントの要請により、オーナーの負担にて新たにエアコンをつけることになったが、賃料が上がるわけではないので実質的に負担増である。契約更新となるテナントからの賃料引下げ要請も続いており、厳しい。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事削減の影響を受け、7月末時点での売上は前年同月比39%と大幅に減少している。
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・北関東一帯の求人を取り扱っているが、当地区はこの22年間で今が最高の掲載件数となっている。雇用数が大変多くなり、良い方向に向かっている。
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・周辺企業からの広告発注が多くなっている。各企業とも宣伝費の予算も増額してきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・求人広告や商店の売出し広告の入稿が少しずつ増加してきている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・前年と比べると新規求職者、有効求職者ともに4か月連続して減少している。有効求人については、4か月連続して増加している。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・学校あて求人や例年のこの時期に来る求人先に問い合わせをしたところ、採用人員を若干増やしている先が多くなっている。また、求める人材の水準を下げないためか、引き続き採用活動を行っている企業もある。特に営業職が多い。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・引き合い状況に変化は少なく、思うように契約成立数が伸びない。その背景として、保険事務の経験者、20代で秘書業務の経験者、管理栄養士の有資格者などというように、企業側が発注時に絞り込んだ条件を設定しているということがある。適合する人材を登録スタッフから探すことが困難なケースが多く、ハローワークや職業訓練校への問い合わせなど、様々な対応策をとっているものの、契約増には至っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・この周辺でも製造業の景気は多少上向き傾向にあるが、依然として利益率は低く、雇用増にはつながっていない。この夏の暑さでサービス業の一部門の売上が伸びたものの、全体的にはパート、アルバイトの補充にとどまり、正社員の雇用は少ない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新規求人数は微増であるが、企業縮小などによる雇用調整の動きが若干みられるので、総じて変わらない。
		学校〔大学〕（総務担当）	採用者数の動き	・年度途中なので確定した進路状況は出ていないが、最終的には前年度並みの数字と見込んでいる。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・求人数の動きは比較的少なくなっている。業種では電子、住宅関連の資材、家電関係は非常に生産が伸びているようで、求人、求職ともに動いている。請負単価、時給単価は3か月前に比べ落ちており、ポイントで把握はできないが、最大50円程度低下している。
	悪くなっている	-	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良くなっている	家電量販店（店長）	単価の動き	・高付加価値のヒット商品が出てきて、単価の上昇に貢献している。
		家電量販店（営業統括）	単価の動き	・パソコン本体に関しては、依然として厳しい販売状況が続いているが、デジタル家電製品を中心に販売量が伸び、その影響で販売単価が上昇している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数は前年比145%と増加している。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・マスコミのワイドショー等で当地区が多く取り上げられたため、来客数が増加している。オリンピック等で外出が控えられると思われたが、時間帯がずれていたため、影響はない。
		百貨店（企画担当）	競争相手の様子	・オリンピックの影響で、液晶テレビやDVD等の家電商品が好調である。猛暑のため、アイスクリームや飲料関係も好調に推移している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・最近の客は、高くても良い物は買う傾向にあるので、客単価の動きも、安物一辺倒になっているわけではない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今年の夏の暑さの影響だと思われるが、飲料やアルコール関係の動きが良く、昨年比で販売量が110%となっており、全体の売上がけん引している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・猛暑のため、来客数が10%増加している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・気温が高く、夏物の需要が持続しており、来客数が増加している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・ビジュアル関連商品だけを見ると、3か月前と比べて大幅に伸びているが、その分パソコンが全般的に落ちているので、全体としてはやや良くなっている。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑のため、例年に比べて夏物の需要が好調である。しかし、根幹商品である薬全般の販売量が悪く、特に風邪薬は前年を10%以上下回っている。
		その他専門店〔眼鏡〕（店員）	販売量の動き	・夏物商材であるサングラス等の売上が好調で、全体的な底上げとなっている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・宴会の予算が低価格で推移している状況は変わらないが、追加オーダーが増加している。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・客から、残業が増加しているという話をよく聞く。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・披露宴の予約が、現段階で昨年の2割増になっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・個人客がかなり伸びており、稼働率も上がっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会商品は、前年比130%となっており、法人の需要が好調である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量が上向いている。海外旅行は、人気ドラマの影響で、中年の客層の韓国旅行に対する反応が良く、秋口以降も増加が見込まれる。国内旅行も、比較的順調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・デジタル放送の販売が好調である。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・契約戸数が、多少増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・ホームセンターが近くに相次いで開店してから、一般客の来店が大きく減少している。大型店対策を模索しているが、四苦八苦している。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	お客様の様子	・夏物処分セールも安くないと売れない。秋物商品を中旬頃から展開しているが、不発に終わっている。街の出入が少なく、商店街の環境は厳しい。
		一般小売店〔CD〕（営業担当）	販売量の動き	・低価格商品は販売数が増加しているが、高額商品の販売数が伸びていない。
		一般小売店〔鞆・袋物〕（従業員）	お客様の様子	・オリンピック効果のため、スポーツバッグやトラベルバッグ等の動きが良く、来客数が倍になっている。単価は1割程度低下しているものの、良い傾向にある。一般の身の回り品は動きが鈍く、単価を下げてでも、購買につながらず、来客数と客単価が前年の2割程度低下している。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・8月は帰省ギフトの時期であるが、ギフト購入の販売点数は減少し、単価も低下している。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・8月のセールの売上は日を追うごとに減少し、猛暑対策の商品を投入したものの、売上には結び付いていない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・ビアガーデンについては、来客数、売上とも前年の2倍以上と相変わらず好調であるが、全体的な売上は前年並みで推移している。
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・猛暑が夏物クリアランスの追い風になった7月に比べ、8月の残暑は夏物の商品不足で息切れしたことに加え、秋物の販売にマイナス影響が出ている。月末の大型台風の影響で客足が鈍るなど、天候要件が大きく影響している。付加価値の高い商品を展開する都心の旗艦店が前年クリアと好調だった一方、ボリューム層がメインの郊外店は軒並み前年割れと苦戦している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・8月は猛暑が続き、飲料、めん類、果物、揚げ物、レジャー用品等の夏物商品の販売量は前年の120～130%の伸びで推移している。反面、野菜、肉、魚の生鮮は90%台と苦戦している。お盆が週末と重なったため、追加的な売上は取れなかった。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・昨年の冷夏に対して、今年是天候の条件が良いにもかかわらず、7月の来客数は99.2%、8月が98%と、来客数が伸びていない。特に、猛暑で午後2～4時の来客数がかなり減少している。
		スーパー（店長）	それ以外	・売上が良くないため、価格訴求のチラシを継続投入している結果、顧客が品質より価格重視の購入に変化している。来客数及び買上点数は昨年並みを維持しているものの、客単価が前年より1割ほど低下している。
		スーパー（統括）	来客数の動き	・家電等の一部商品は回復基調であるが、その他の商品については、猛暑の影響が、7月後半から8月前半にかけて、来客数、レジ客数、客単価とも低調である。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・品質が優れ、値ごろ感のある商品に客の購入が集中している。来客数、売上、単価ともに変化はないが、商品によるばらつきが顕著に現われている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・秋物の立ち上がり、夏物の最終処分で来客数はあまり増加していないものの、買上点数は増加している。ただし、単価が低いので、売上には貢献していない。
		衣料品専門店（次長）	販売量の動き	・今年の夏は暑かったので、売上の大幅アップに期待していたが、夏物が前倒しで売れただけで、その後は尻すばみとなっている。
		家電量販店（営業部長）	販売量の動き	・引き続きAV商品が全体をけん引しているが、生活家電の主力であるエアコン、冷蔵庫は、後半から失速気味である。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・ユーザーは、低価格の車両でも購入にかなり慎重になっており、結論が出るまでに時間がかかっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（渉外担当）	販売量の動き	・8月新車販売台数実績見込みは、予算達成率89.8%、対前年同月比で17.9%の増加であるが、7月初めの新型高級車のモデルチェンジ、下旬の新型車のコンパクト2BOX車の発売等、新型効果のある中での実績としては物足りない。中古車の売上台数実績見込みは96.8%、対前年同月比で6.0%増と、ほぼ横ばいである。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。現在では、ボーナス時期であっても、通常と変わらなくなっている。 ・オリンピックの中継があり、家で食事が増加している。
		一般レストラン（店長）	お客様の様子	・8月は盆だけでなく、その後もずっと暇である。客はレジャー、買物など、金の使い道を決めていて、外食まで金が回っていない状況が続いている。
		一般レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・メニューを変更しても、常連客等が上のコースを注文する気配がみられない。レストランにしては、アルコール等の飲料が伸びていないことも気になる。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・昨年に比較すると、7月までは好調であったが、8月はオリンピック観戦の影響か、外出や外食する客の数が少ない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行の取扱数は、一時期に比べ回復してきている。海外に関しては、一部良くなっている旅行会社もあるようだが、全体的には動きが芳しくない。特に、海外の団体旅行が動いていない。販売量はやや増加しているが、薄利多売の傾向が続いている。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・営業回数、実車率等なかなか上向かない。街中や歓楽街を歩く人の数が非常に少ない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・オリンピックの開催は加入営業には追い風となったが、テレビ以外は厳しい状況で、変化は少ない。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・7月後半～8月前半にかけて、アネネオリンピック需要で、ケーブルテレビのデジタル放送サービスを申し込む人の数が順調に増加した。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規契約数は対象エリア拡大に伴い順調に推移しているが、解約も相当数あり、差し引いて考えると厳しい状態が続いている。
		その他レジャー施設【アミューズメント】（職員）	来客数の動き	・オリンピックと猛暑のため、前年比で約10ポイント悪化している。冷夏であった前年は、目的をもちに外出した帰りに立ち寄る客も結構いたが、今年はこのような客が減少した上、オリンピック観戦のため夕方から夜にかけての来客数が減少したことが原因となっている。家庭用ゲームについては、大きな変化はみられない。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・建設関連、特に中小零細の建設会社、設計事務所は仕事が少ない。少ない中で単価の競争をするので一層厳しく、良い方向には向かっていない。
	やや悪くなっている	百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・客単価が96%と落ち込んでいるため、来客数は前年並みであるが、売上が減少している。前年はコート、ジャケットが動いており、3か月前も初夏物の走りに今よりも力強さがあった。前年の冷夏の反動もあるが、衣料品の秋物の動きが鈍い。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・一昨年のサッカーワールドカップほどではなかったものの、オリンピックの影響もあり、来客数が減少している。また、猛暑の影響で秋物の売行きが鈍り、売上減となっている。
		百貨店（業務担当）	販売量の動き	・来客数が前年に比べ落ち込んでいるが、売上減の割合は来客数減の割合を上回っており、来店してもなかなか買わない傾向が強い。オリンピックにおける日本チームの活躍や、残暑の関係で衣料品が売れず、客の財布のひもも非常に堅い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・8月は新装オープンしたので、相応の結果を期待していたが、来客数は前年比108.1%と伸びているものの、買上点数は89.4%と厳しい状況である。買上単価も低下しているので、やや悪い。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数も減少しているが、単価の低下が響いている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数も少ないが、それ以上に客単価の落ち込みが激しく、苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・トラックのユーザーは、月当たり相当の燃料を使うので、軽油にせよガソリンにせよ、値上げに敏感である。中東で原油が1バレル当たり47～50ドルと高騰している影響が、消費者にも転嫁されているが、業者は運賃を引き上げることができないために、他の面で削減を図っており、トラックの価格を安くする努力が見受けられる。	
		その他専門店 [キャラクターグッズ](従業員)	お客様の様子	・猛暑の影響もあり、客足が鈍化している。来店した客の買上率も低下しており、売上が厳しい。	
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・来客数が伸び悩んでいる。暑いせいもあるが、今年はオリンピックの年でもあったので、例年よりも客足が落ちている。	
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・様々な方法で広告を行っているが、レストランの来客数、特に夜の来客数がなかなか伸びない。婚礼関係も、プライダルフェアや内覧会を実施しても、新規の来館者が増加していない。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・例年、8月は夏休みのため悪い時期であるが、今年はオリンピックを見るために早く帰る人が多く、夜は本当に人が少ない。	
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・インターネットの新規加入数が、前年同月と比較して激減している上、解約は増加している。	
		その他レジャー施設(経営企画担当)	お客様の様子	・消費の2極化現象は続いているが、ニーズに合致した商品に対する客の消費意欲は弱まっている。	
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・8月は例年、受注量等が減少するが、今年の8月は前年度に比べても20%程度減少している。	
		悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・猛暑のため、朝晩はいくらか来客があるものの、日中は来客がなく、低迷している。
			一般小売店[家具](経営者)	来客数の動き	・とにかく来客数が少ない。客が来店しても、何を買ってもらえるか検討がつかず、戸惑っている。
衣料品専門店(営業担当)	販売量の動き		・猛暑のため人出が少なく、またオリンピックで家に閉じこもる傾向があり、夏物衣料が前年比70%と、極端に悪くなっている。		
住宅販売会社(経営者)	販売量の動き		・8月は盆休みと猛暑のためからか、建売分譲住宅を見学に来る客も少なく、契約件数は0件である。例年であれば盆休みに住宅を見比べ、購入する客が必ずいたが、今年は皆無である。仲介業者も手数料売上が惨たんたる結果となっており、9月へ向けて、早くもシフトを切り換えているところが多く見受けられる。		
住宅販売会社(経営者)	単価の動き	・最近では請負でも分譲住宅でも、価格がかなり低下している。受注量、販売量も減少し、利益が少なくなっている。デフレに歯止めがかかっていない。			
企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-	
		非鉄金属製造業(経理担当)	取引先の様子	・取引先は仕事量が多く、残業等も行っているようである。	
		建設業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・一般的ではないが、景気が回復している産業の設備投資の話が出るようになってきている。	
		金融業(渉外担当)	競争相手の様子	・メガバンクが中小企業融資増強に積極的になってきている。リスク分散をしながら積極的に融資をしており、資金使途自由で長期資金を売り込んでいる。	
	不動産業(総務担当)	取引先の様子	・入居希望テナントの情報が活発に入ってきている。他ビルとの比較があるためか、成約までには若干時間を要しているが、徐々に空室率が改善している。		
	変わらない	繊維工業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・この3か月は、夏物の生産はあったが、秋冬物の生産がなく、少し悪い状態で変わっていない。	
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・見積り依頼は以前よりも増加しているが、成約にはなかなか至らない。	
		金属製品製造業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・材料費が高騰しているが、製品に転嫁できていない。	
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新規受注が大分増加して、見積り件数も増加している。	
		電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・比較的順調に受注量が伸びてきたが、8月に入り受注量がやや減少している。	
その他製造業[鞆](経営者)		取引先の様子	・全体的には相変わらず悪いが、ここに来て、特徴のあるサンプル作りの仕事が若干増加している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・排ガス規制の問題で、車輛経費がかかる。ここにきて、燃料費が高騰しているため、経営上の圧迫要因となっている。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・7月に得意先から人員削減の具体的な話があったが、9月以降出荷が増えるので、人員削減実施の時期が予定よりやや遅れている。厳しい状態は変わらないが、計画より売上が若干増える。
		金融業（得意先担当）	競争相手の様子	・半導体やIT関連に動きが出て、良くなってきているが、不況業種の建設業等が持ち直していないので、全体ではまだ変わっていない。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・広告出稿に関しては消極的な姿勢は感じないが、客のコスト管理は非常に厳しい。
	やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・会社設立に関する印鑑の注文が、8月は8件しかない。3か月前の5月は11件、7月は15件であり、若干減少している。
			金属製品製造業（経営者）	取引先の様子
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は5月比82%と、悪くなっている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・8月期においてはいくつか引き合いがあったが、他社との価格のたたき合いになり、受注することができなかった。案件は出てきているが、運転資金を調達するために赤字でも受注に向けた価格設定をする競争相手があり、情報通信分野における価格破壊が一層進んでいる感がある。
	悪くなっている			
	雇用関連	良くなっている		
やや良くなっている		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣受注数が増加している。コンサルタント会社、IT業界、住宅会社において派遣依頼が目立っている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・通常、8月は求人数が少ない月であるが、今年はそれほど減少せず、かなりの業種から同じように求人が来ている。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・新聞の人材広告面が満枠で推移している。また、人材紹介、あっせん企業の営業が活発で、人員を増強している。企業の秋採用が増加している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・3か月前と比較し、求職者数が減少し、求人数は増加している。求人倍率は1.15倍と、3か月前と比較し上昇している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・最近の求人企業の採用動向は、以前よりも活発になっている。今まで結論を出さなかった求人の採用決定が比較的迅速に決まるようになってきている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・紹介の雇用形態は、長期より短期で継続という形が多くなり、派遣雇用、紹介派遣等の雇用形態が多様化してきているため、優秀な人材確保に広告費がかかる。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	求人数の動き	・7、8月の暑さで好不調の業種が極端に出ているが、総体的に求人数に大きな変化はない。
		職業安定所（所長）	周辺企業の様子	・雇用保険の資格取得件数に大きな変化がみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人の増加傾向に一服感が表れている。一部の経営者は、オリンピック後の好景気の持続に懐疑的な見方をしており、直接雇用の求人を見合わせて、派遣や業務請負会社を活用している企業がみられる。
やや悪くなっている		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・広告費を半額以下にする、1箇所値段で2、3箇所広告を出すというような安い広告会社に切り替えるユーザーが出てきており、年間で一千万円近くのダウンになる見込みである。
悪くなっている				

5. 東海（地域別調査機関：（株）U F J総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向	良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の購買意欲が出ており、顔つきも明るくなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・来客数が急激に増えている。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・客の雰囲気は良くなってきている。
やや良くなっている		商店街（代表者）	販売量の動き	・電化製品の省エネ化が進み、古い物を使い続けるより、物によっては買い替えたほうが経済的であることが客に浸透してきている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・客の購買行動で、以前はシビアに必要な数だけを購入していたが、今は気軽に商品を買うようになっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・異常な猛暑と大型台風の来襲に見舞われ、観光客の出足は前年比5%鈍化している。しかし個人消費は、客の購買量からみると回復基調にある。
		一般小売店〔わさび漬〕（経営者）	お客様の様子	・客単価は低いままだが、買上点数が少し増加している。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は1.5%程度増加しており、客単価も2%程度上昇している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・猛暑のため飲料の動きが良い。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・残暑が続いているため、全般的に販売量は好調である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・8月前半は活発な動きであるが、お盆明けから戻すばかりで、トータルでは前年比微増である。価格帯は分散しており、客の様子も多様化している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・来客数の増加とともに、購入決断を早める客が増えている。今後の景気の見通しの明るさが要因のひとつである。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・夏の暑さとオリンピックの影響で、かなり景気の良い状況である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4～6月期に比べ、販売数量が上向いている。
		乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・他社は良い状況のようである。当社も例年の8月と比べてあまり動きがないが、悪い状況ではない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・お盆まではそれほど来客はないが、月末から賑わっている。また法人からの引き合いも多くなり、受注に至らないまでも商談件数は最近にはない数である。自社や他社でも新型車が発売されるため、これからを期待している。
		その他小売〔貴金属〕（経営者）	販売量の動き	・夏休みやオリンピックで開放感があり、購買力が以前と比べやや上昇している。しかし、単価は低い。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・ホテルの売上などにはそれ程変化がないものの、客の動きをみていると景気回復が感じられる。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・店頭をリニューアルしてイベントを1週間実施しているが、通常の2倍近い客が来店し旅行を契約していく。
		タクシー運転手	お客様の様子	・猛暑の影響で客が増えている。特に病院通いの中高年の客がよく利用している。またお盆前後は、海外旅行や国内旅行に出かける際にタクシーを利用する客が前年より増えている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・オリンピック効果があるのか、キャンペーン終了直後にもかかわらず新規加入の落ち込みがない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅ローン減税の縮小に伴う駆け込み受注が少し増えている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・家賃収入による生活資金の補てんを図って、土地を所有している年金生活者がアパート、マンションを建設している。
変わらない		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・久しぶりに決算セールを実施したが、本当に欲しいものだけをよく考えて買う客が多く、売上は伸びていない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・8月半ばまではチューハイ、発泡酒や缶ジュースがよく売れているが、単価の低い商品のため売上にはあまり貢献していない。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	販売量の動き	・栄養飲料は何とか売上が伸びているが、殺虫剤関連はさっぱりである。化粧品は、美白関連は順調であるが、暑いいためか来客数は伸びていない。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・バーゲン是好調であるが、暑い日が続き、秋冬物の問い合わせは例年より少ない。秋物は9月に入って涼しくなってきたからという客が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経営者）	それ以外	・大手スーパーでは景気の良い話もあるが、中小ではとても景気が良いとは見えない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・この地区では漁獲量の不振と暑さの影響で、買い控えが目立っている。お盆用のかご盛りは、昨年に比べ各家庭で飾る数が減っている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は引き続き若干増加しているが、単価は相変わらず低下傾向である。単価の低下に来客数の増加が追いついていないという状況は変わっていない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は依然95%前後の推移で回復感がない。中元商品の単価も前年比95%前後である。お盆用の大型商品の動きも悪く、例えば寿司は1、2人前の動きは良いが、3～5人前は前年を大きく下回っている。
		スーパー（店員）	単価の動き	・売上、来客数とも変化がない。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・日中が暑すぎて来客数が減少している。暑すぎるため、手の掛からない惣菜などの食品が売れるが、調理や熱を必要とする食品の動きが悪い。生鮮食品で客単価は前年に比べ4～5%低下しており、依然厳しい売上が続いている。
		スーパー（経営企画担当）	販売量の動き	・台風の影響で販売量が減少している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・天候にも恵まれ、ビール、発泡酒や飲料水は好調であるが、中元商品は前年比で15%程悪くなっている。中元は特に法人関係で単価、点数とも減らしているところが多く、なくしているところもある。店全体の販売量は前年並みに落ち着いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・月初の台風、下旬の雨と天候に恵まれていないが、季節物を中心にほとんどの分野で動きは良好である。しかし、肝心のファーストフードの動きはやや鈍い。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・既存店の売上の前年比は96%台と悪化している。客の購買意欲も良くなっていない。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・お盆は好天にも恵まれ大幅に売上を伸ばしている。しかしお盆の前後は、天候も良く昨年に比べて気温も高いが、全てのカテゴリーで販売量はいま一歩である。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・6、7月は空梅雨、猛暑のため、販売数はかなり伸び、特に冷たい飲食料品が伸びた。8月も暑かったが客は暑さに慣れており、昨年と同じ気温の日には販売数は逆に減少している。特にアイスクリーム、ソフトドリンクが減少している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は来客数で前年比を若干下回っているが、1人当たりの買上げ個数は増えている。全体の売上は、前年をほんの少し上回っている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・冷夏の前年とほぼ同じ数字で、あまり良い印象はない。
		衣料品専門店（企画担当）	販売量の動き	・定番商品は動いているが、バーゲンの動きが一部を除いて非常に悪い。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・お盆商戦においても客の買物は相変わらず慎重である。例年なら8月12、13日頃から売上は増加するが、今年は猛暑のため14日がピークになっている。売上は例年に比べて微減である。
		自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・土日に人が集まらなくなっている。駐車場も一杯になることはない。車検でも最低限必要な部品の交換に終わっている。安ければ安いほど良いという客の心理が働き、安全性よりも価格が優先されている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の発売による新車効果から来客数と受注台数は前年を上回っており、店頭にも活気がある。しかし販売計画を上回ることができていない。さらに車両販売価格の低下に伴う利益の減少も大きく、景気が良くなっているという実感は持てない。
		住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・少子化も背景にあり、住宅は横ばいまたは減少傾向である。ファッションビルなど設備投資は伸びているが、競争激化で厳しい状況である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・夏休みなのにファミリー客はあまり増加していない。しかし、平日にちらほら見かけることもある。
		都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・宿泊単価を少しでも上げると売れなくなる。他ホテルも低い料金設定の様子である。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊の稼働率は依然として伸びているが、レストランの来客数が増えていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・来客数に特に動きはみられない。
		旅行代理店（経営者）	競争相手の様子	・依然として低単価が収益を圧迫している。利益率の良い商品の販売を目指してもなかなか難しい。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・旅行業は薄利多売であるが、客単価が低下しているため、販売高がなかなか伸びず苦しい。
		タクシー運転手	来客数の動き	・お盆前後の客の動きは、昨年8月と比べてほとんど変わっておらず、あまり良くない。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数の動きに大きな変化はみられない。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・暑さのせいか入場者数が伸びない。売上高も伸び悩んでいる。料金を値下げしても厳しい状態が続いている。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・販売量に変化はみられない。
		パチンコ店（店長）	来客数の動き	・お盆の来客数と客単価は、例年に比べるとばらつきがある。また、お盆前後の来客数と客単価はここ数か月とさほど変わらない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店サイクルがかなり長くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・お盆の期間中は例年通りの忙しさである。しかし、お盆前後が不調で、販売量は若干だが悪い。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑で商店街への来客数は減っている。また当和菓子店にとっても暑さは良い影響を与えていない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・オリンピック観戦の影響が、来客数や売上は伸びていない。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・例年8月は閑散期であるが、前半はクリアランス目当ての客が入っていた。しかし高額の買物をする客が少ないため、売上は本当に悪い。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・猛暑とオリンピックの影響で、来客数は大幅なダウンとなっている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・夏のクリアランスが終わり、店頭には秋物が出揃っているが、天候不良や猛暑のため秋物の出足は遅い。婦人服、紳士服、雑貨などをはじめ全体的に不振である。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・オリンピック期間中は来客数が大幅に落ち込み、それに伴い売上も低迷している。さらに猛暑の影響で夏物が7月に売れすぎ、8月に入って夏物商材が不足していることも売上低迷に拍車をかけている。
		百貨店（外商担当）	来客数の動き	・オリンピックの影響で来客数がかかなり減っている。外商の訪問販売も厳しい。その結果、売上は予定をかかなり下回っている。
		スーパー（経営者）	それ以外	・今年は梅雨時に雨が少なく、また猛暑のため農作物が不作である。そのため農産物の価格が高く、客には割高にみえてしまう。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・単価が低下しており売上は伸びない。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	お客様の様子	・引き合いは多いが、注文にはなかなか至らない。
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・平日の来客数が再び減少している。海外旅行の増加やオリンピックのテレビ観戦などの影響がある。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・お盆休みとオリンピックの影響が想像以上にあり、人出がとてもし少ない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・お盆明けは、オリンピックのテレビ観戦の影響で客が減っている。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響で弁当の販売量が減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・天候のはっきりしない日が多く、レジャー部門の利用が特に悪い。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・4月からの浜名湖花博で4～6月はかなりの客があったが、一巡して追い風がなくなっている。8、9月は昨年よりもやや弱含みで予約が入っている。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・客は必要な時しか来ない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・相変わらず客の回転が悪い。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・8月に入ってから土地の売行きが悪い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	悪くなっている	住宅販売会社（企画担当）	お客様の様子	・チラシ広告などを入れても反響の数が非常に少ない。客の動きが悪い。	
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・オリンピックや高校野球の観戦のため、昼も夜も客はまったく外出してこない。	
		美容室（経営者）	それ以外	・お盆までは良い状況だが、その後はダウンしている。暑さが影響して例年の8月に比べて悪い。	
		設計事務所（営業担当）	販売量の動き	・仕事が減っている。	
企業動向関連	良くなっている	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売数量は増加しているが、原料高で採算は厳しい。	
		輸送用機械器具製造業（工務担当）	受注量や販売量の動き	・1日の生産量が最高水準で推移している。不祥事があった他社からの顧客も流れてきており、海外でも高水準で伸びている。	
	やや良くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量ともにやや増加している。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主にタイル及び衛生陶器用の窯業原料の需要が増加しているため、売上は3か月前と比較して26.2%増収、経常利益は5.1%の増益である。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・工事件件の見積が増えつつある。これから年末や年度末に向けて工事は増えてくる。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・オートバイ、農機具などは毎年秋口から冬にかけての期間で来年分をまとめて生産するが、今年は春、夏季にも減産していない。	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・得意先からの引き合いが、ここにきて大変増加している。	
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・貨物量は前年比で2けたの伸びを見せている。	
		広告代理店（経理担当者）	取引先の様子	・顧客企業からの問い合わせ件数が増えている。	
		行政書士 その他非製造業〔デザイン〕（経営者）	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き	・関与先の運送会社の出荷量が上昇している。 ・商品出荷は順調である。	
	変わらない		鉄鋼業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格、販売価格は大幅上昇中だが、受注量、販売量はむしろ減少しつつある。
			一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・原油価格の上昇が頭打ちにみえるが予断を許さない。鋼材の値上げ交渉、価格転嫁交渉もまだ決着に至っておらず、当面は懸念材料が山積している。
			電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内販売は監視カメラなど市場の堅調さはあるものの価格競争が激しく、この半年間ほぼ同レベルで推移している。他の商品は今月が決算月で増加し全体として販売高は増加傾向であるが、その推移は例年同様である。
			電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・夏物セールは途中で失速しており、縫製に追加注文が入る状況にもない。次の季節物の生産も控えめで、設備を導入したにも関わらず好転はみられない。
輸送用機械器具製造業（経理担当）			受注価格や販売価格の動き	・受注単価の高い商品の売行きはよいが、その程度は3か月前と大差はない。	
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価は引き続き厳しい。受注機会は非常に多いが、単価が低すぎて受注に結び付くケースは非常に少なくなっている。	
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・客との運賃の値上げ交渉では、運賃の据え置き、あるいは値下げを求められる。	
		金融業（従業員）	取引先の様子	・取引先では会社の提携や合併が予定されている。従業員は将来に不安を感じる人が多い。	
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・海外取引が活発になっており、その関連業種では好況である。しかし業種によって好不況の差が大きい。	
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・印刷媒体や電波媒体などの出荷量が少しずつ増加しているが、全体からみるとほとんど変わっていない。	
		公認会計士	それ以外	・顧客企業の業績は、平均的にみて回復しているとは言いがたい。地元信用金庫の貸出残高も減少傾向にあり、中小企業には積極的な資金需要は起きていない。	
			経営コンサルタント	それ以外	・新規に宅地開発をする動きは、まだまったく見られない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		税理士	取引先の様子	・各企業を訪問してみると、お盆休みをゆっくり取っている。休み前後もそれほど忙しく動いていない状況である。
		その他非製造業 [ソフト開発] (経営者)	受注量や販売量の動き	・景気は底堅く動いており、新しいことを取り入れようとする動きは相変わらず強い。
	やや悪くなっている	金属製品製造業 (従業員)	取引先の様子	・契約分の出来高請求や変更契約に対する客の対応が大変渋く、資金回収が思うようにいかない。
		電気機械器具製造業 (従業員)	それ以外	・原材料入手先からの先行発注依頼が多くなっており、業界全体の動きが鈍い。
		輸送用機械器具製造業(統括) 広告代理店(従業員)	受注量や販売量の動き 競争相手の様子	・受注量が少しずつ減少してきている。さらに単価についても非常に厳しい要請がある。 ・品質本位の競争ではなく価格競争となっており、ダンピングが激化している。
	悪くなっている	非鉄金属製品製造業[鋳物] (経営企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・販売単価はなかなか上がらない一方で、原材料価格は上昇する傾向にある。
雇用 関連	良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・派遣依頼のオーダーが前年同月比で20%以上増加している。スタッフの人手が難しく、供給不足の状態が続いている。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・今月の求人数は今年で一番多い。
		職業安定所(所長)	求人数の動き	・新規求人数は減少しているが、大手企業の期間従業員の求人更新時期でないためである。しかし最近、これまで求人活動をしていなかった中小企業からも新規求人が多く出される。
		学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・印刷関係、自動車関連メーカーや機械工具関連の求人意欲が非常に高まっている。
	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・最近、紹介予定派遣の受注が増え、それに伴い正社員の採用をする企業が増えている。
		人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・今月の求人、求職の動きは当初の見込みを上回っていないが、順調に数字は伸びており、通常よりはやや良くなっている。
		新聞社[求人広告] (担当者)	求人数の動き	・新聞の求人広告は例年なら8月は通常月より減少するが、今年は若干ながら増加している。求人がやや活発化している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・管内の有効求人倍率は3か月前に比べ、月間有効求人が10.3%増加し、月間有効求職者数が8.5%減少しているため3か月前に比べ0.21ポイント上昇の1.22倍となっている。前月に比べると、1.15ポイント上昇している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・全体の求人数は増加傾向にある。特に派遣や請負の求人数が飛躍的に伸びている。
		職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・猛暑の影響でエアコンや冷蔵庫の販売が好調で、例年なら8月中旬には期間満了となる家電メーカーの期間工の契約が延長されている。プリンター用トナー製造会社も売上は堅調で、新工場用に求人が出ている。
		職業安定所(管理部門担当)	求人数の動き	・来春新卒予定の高校生の求人は、前年同期比で、求人数で30.5%、求人数で46.0%と大幅に増加している。
	変わらない	民間職業紹介機関(経営者)	採用者数の動き	・大手メーカーが中途採用に本腰を入れてきており、採用数は増加している。
		民間職業紹介機関(職員)	求人数の動き	・3か月前と比較すると、求人数は約2割強の増加である。
		新聞社[求人広告] (営業担当)	雇用形態の様子	・軽雇用求人の需要は相変わらず高いが、正社員求人の需要は横ばいが続いている。
				・静岡、浜松では正社員の求人と求職者のバランスは取れているが、清水、焼津、島田などの中小都市では軽雇用の求人はおう盛だが正社員の求人が少なくバランスを欠いている。 ・中小企業では体力が弱いため、固定的な人件費の増加を避ける傾向が続いている。軽雇用、低賃金構造が定着しているため、特に中小都市では流通業も不振である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は4月から5月にかけて増加したが、その後は横ばいである。求人増加分は派遣、請負などであり、求職者の求める常用雇用は賃金、条件面で引き合わず、依然として厳しい状況が続いている。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月も暑い日が続いたため、飲料などが好調であった。
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・7月に引き続き猛暑の影響から、気分やスタイルが変えられるサンダル、サマーバッグ、帽子、サングラスなどの売上が前年の5割増しとなった。水着は1シーズンで1着買えばいいということから、7月ほどの勢いはなかった。総体的に夏商品は好調に推移した。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今月はオリンピックのテレビ観戦時の食材として、チャーシューめんなどがよく売れた。また、ビールの販売量が増加し、発泡酒を上回った。
	変わらない	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・従来は前年比10～15%減となっていた売上がほぼ前年並みになってきた。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車が発売されて以来、好調な推移を見せている。また、福井豪雨の影響で新車、中古車の販売台数が増加し、サービス部門でも修理車の入庫が増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・福井豪雨により、多くのボランティアや報道関係者が訪れ、この輸送のため売上が増加した。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・携帯電話の販売台数が純増ペースで増加している。
		競輪場（職員）	単価の動き	・来場者の1人当たり売上単価が上昇している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・特に若い客が住宅取得に対して意欲的である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・暑さが続いたことや、商店街からの退店が多いことから、活気のない状態が続いている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店長）	単価の動き	・単品単価が消費税の総額表示実施以来低下する一方で、なかなか上げることができない。来客数や買上点数は変わらないが、売上は前年を下回っている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・夏物セールの上り上がりがあったため、現在は息切れの状態である。来客数の落ち込みは見られないが、商品に新鮮さがなく売上が伸びない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・食品部門では来客数が前年を上回るか横ばいの状態であるが、買上点数が下回っているため客単価が低下している。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・消費税の総額表示が始まった4月以降、野菜や魚類の単価は下がったままで、上げにくい状態が続いている。
		スーパー（副店長）	単価の動き	・猛暑のため、食品、飲料を中心に夏物の売上は好調に推移した。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・非常に暑い日が続いたため、飲料、アイス、ビール、発泡酒などが非常に好調であった。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・8月に入ってカラーテレビの売行きが鈍ってきた。特に薄型テレビの価格競争が激しく、中旬以降は値下げを待つ客の買い控えが多くみられた。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・オリンピック効果で、デジタル家電が非常に多く売れたため、客単価がアップした。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・月の前半はエアコンとオリンピック観戦のテレビの販売で売上は伸びたが、お盆が過ぎてからこの動きも止まり、月全体では前年並みである。
乗用車販売店（経理担当）		お客様の様子	・新しい高級車や小型車は比較的好評であるが、既販車は全く伸びず、総体的には変わらない。	
乗用車販売店（経理担当）	単価の動き	・販売単価が前年比で大幅に低下している。その分販売量は若干増えているが、全体の売上はあまり伸びていない。		
住関連専門店（店員）	販売量の動き	・オリンピック効果を狙い、オーディオボード、ソファなどホームシアター特集を企画したが、家電に見られるような盛り上がりはなかった。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		その他専門店 〔医薬品〕（営業担当）	競争相手の様子	・岐阜や京都など北陸以外の他府県からの参入が始まり、売場競争が熾烈である。	
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・猛暑の影響で、飲料とステーキ店の売上は例年に比べて良い。ただし、オリンピックのせいか、夜の来客数が例年に比べ10%程度下回っている。	
		スナック（経営者）	来客数の動き	・昨年もやや悪かったが、今年はそれより5%も悪化している。客の長期のお盆休みとオリンピックの影響で、開店休業の日が4、5日あった。	
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストランの来客数減少と客室販売数の伸び悩みにより、3か月前と比べて大きな減収となった。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・猛暑のため、夜の繁華街では今まで以上に入出が多かった。しかし、午前から夕方にかけては、流しの仕事でも待機場所でも、客はほとんどいない状態であった。	
		タクシー運転手	販売量の動き	・オリンピック期間中は早く帰宅する人が多いため、夜の客は見られなかった。 ・一時に比べてビジネス客が増えている。 ・長距離客では値引き交渉が活発で、料金が下がっている。	
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベントへの来場者数が以前に比べて増加した。受注量も見込める状態である。	
	やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・8月に入ってからも猛暑が続き、50歳以上の高齢者層の来客数が少なかった。特にオリンピック期間中は影響を受けた。	
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・猛暑の影響で、一部に良い部門もあるが、全体としては3か月前と比較して売上が落ちている。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・猛暑やオリンピック放映などの影響もあり、来客数は前年同月比で5%超の減少となっている。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・7月前半は売上が好調であったが、7月後半から8月にかけては福井豪雨と猛暑の影響で客足が遠のいた。	
	悪くなっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣にライバル店が開店してから来客数が減少し、また2か月前に近隣のスーパーが酒の免許を取得したため酒の売上が減少している。この影響はしばらく続く。	
	企業 動向 関連	良く なっている	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工場建設、改修工事向けとみられる配管部材が好調な売行きをみせている。
やや良く なっている		食料品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・今までは100円セールなどの特売商品がよく見受けられたが、最近では多少値段の高い付加価値商品が受け入れられる状態になってきた。	
変わらない		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・価格面でも非常に厳しい状況である。	
		化学工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引の引き合いが多くなってきているが、相変わらず低価格を要求されるため、成約に至らないケースが多い。	
		一般機械器具製造業（経営者）	それ以外	・先月、先々月に比べて引き合い件数、引き合い金額、受注ともに若干低調になっている。ただし、前年比ではいずれも堅調である。	
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えるに伴いコストダウンの要求が強くなっているが、最近では受注量自体が一服し、価格は下がるものの受注量は変わらないという状態である。	
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・土木工事は官庁、民間ともに発注量が大幅に減少している。建築工事は見積依頼が増加しているものの、価格競争は依然として熾烈な状況が続いている。	
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先では受注量に持ち直しの動きが見られるが、価格は依然として低下傾向にある。	
やや悪くなっている		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べて手持ち工事が不足し、現場に人が余り気味である。	
		輸送業（配車担当）	それ以外	・お盆前後の物量が前年に比べて極端に落ちている。	
悪くなっている		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物件に対する問い合わせが全くない。	
雇用 関連		良く なっている	-	-	-
		やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前月に引き続き、派遣社員の要請件数、職業紹介の依頼件数が増加基調にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告受注件数が前年同月比150%となり、特に正社員の募集が増加している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の求人広告は前年同月に比べ約2割増となっている。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・パートタイムを除く有効求人が23か月連続で前年を上回っている。また、求職件数も増加傾向にある。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・アルミ関連や電子機器関連の求人が増加傾向にある。また、技術系の設計者や薬品分析、品質管理の人材が不足している。
	変わらない	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・企業の採用活動が長期化している。
やや悪くなっている	-	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	-

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている やや良く なっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・猛暑、オリンピック、景気回復という追い風により、前年比150%に販売量が増えた。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・秋物の商材に関して、今すぐ着られない物も動き始めている。夏休みの終わりということで、人出が少なく売上も伸び悩む時期にもかかわらず、親子で買物に来ており、実際に単価の高い物を購入している。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・例年8月は秋物を立ち上げて見向きもしない客が多いが、今年に関しては、セールは前年実績を下回っているものの、秋物は前年をクリアした。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・猛暑とオリンピックの相乗効果により、酒類、飲料、アイスクリーム、おつまみ、惣菜類の伸びが著しい。
		スーパー（広報担当）	お客様の様子	・猛暑によりエアコン、扇風機などの季節品の売行きが好調なのに加え、DVDレコーダー、液晶テレビなどのデジタル家電の売行きも引き続き好調である。また、中元についても昨年実績、予算とも上回るなど、全体的に消費は上向き傾向にある。
		乗用車販売店（営業担当）	単価の動き	・3か月前までは、150万円前後の車が売れていたが、最近では300万円以上の車が売れてきている。
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・台風の影響で来客数は減ったが、一方で、盆休みの帰省やアウトドアの客が増え、土産や食事利用の客単価が伸びた。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の乗車機会が増加しているとの感触は依然続いており、営業収入もそれに比例している。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・年末から春に向けての商戦へのシステム投資が、順調に伸びている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・オリンピックに関連して、客のデジタルセットトップボックスの申込や、新規でデジタルコースを選ぶケースが非常に増えてきている。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	販売量の動き	・当業界のオリンピック月の売上は、通常前年割れとなるが、今回は時差があった影響もあり、前年をクリアする見込みである。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・少し前までは必ず客から値引き交渉が入っていたが、ここ最近では、価格が購入を阻害する要因にはなっていない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・近畿圏の新築マンション市場は、販売在庫数を減少させており、10年振りの低水準を維持している。一方、新規供給は依然抑制されており、市場での品薄感はある。
	変わらない	商店街（代表者）	単価の動き	・一時期消費が上向いたが、現在は客の購買意欲も慎重になり、消費が停滞している。
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響で夏物商品の販売は好調と聞かすが、アパレルに関しては良いという話はない。	
	一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き	・今年はあまりに暑すぎて、通常スタミナをつけるために食べる焼肉商材が不発であった。また、高級商材も期待したほどに動かなかった。	
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・ファッション商材のみならず、化粧品のような消耗品ですら大きく販売計画を下回っている。また、真夏日が続き秋の先取りも苦戦している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・50万円以上の高額商品についてはまだまだ動きが鈍いが、10万円から20万円の商品については少し動いている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・早期受注で婦人服を注文する顧客は例年通りであるが、宝飾品、美術品などの高額品の引き合いが急激に減ってきた。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・婦人服を中心に苦戦している。また、改装効果で売上好調であった食料品部門も、1年経過して苦戦している状況である。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の買物は非常に慎重であり、広告商品しか動かず、定番商品の動きがかなり悪い。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・これまで高単価商品を中心に販売していた競合店が、価格競争に参入してきた。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・オリンピックと天候の影響もあり、夕方の来客数に少し落ち込みがみられた。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・チラシ回数を増やすなどで売上増を図ったが、台風の影響や競合店の競争によって、期待した売上は見込めなかった。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・来客数が増加する一方で、客単価が下落するという傾向が相変わらず続いている。オリンピックの上乗せ効果は当社でみる限り、あまり感じられなかった。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価、点数単価は下がる一方であるが、工事・建設関係従事者の利用頻度が上がってきているのは、明るい兆しといえる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・7月後半から8月にかけて、夏物バーゲンセールを開催したが、オリンピック等のイベントの影響で売上は伸び悩んだ。
		家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・オリンピック関連の消費の動きもそれほど影響がなく、製品が壊れたら購入するという動きである。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・ボーナス商戦は終わったものの、極端に売上が細ってきた様子はなく、客足も思ったほど悪くない。ただし、購買単価は相変わらず低く、目的買い指向が続いている。その中で、わずかではあるが、目的買い以外の広がりもみせ始めている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・8月上旬までは、夏物が前年比3倍程度の売行きを示し、販売が好調であったが、夏物が終わってしまうと、従来通りの販売不振の状況に逆戻りしている。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・8月上旬までは、猛暑のためドリンク類がよく動いたが、それ以降の来客数は減少した。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・オリンピック開催のため、今月は期待していなかったが、今夏は暑かったため、納涼大会等の小グループの来店が何件かあった。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・以前は常に満室になっていた盆や土曜日にも、今年は空室が目立つ。また、数年前までは盆以降の来客数が多かったが、今年は以前と比べて特に悪い。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・新規の会議、宿泊、宴会予約の値引き要請が強く、単価低下傾向は依然続いている。
		旅行代理店（広報担当）	販売量の動き	・夏の旅行シーズンをほぼ終えて、海外旅行者は昨年と比べると大幅に回復し、国内旅行者も昨年の実績を上回っているが、SARS問題の発生前である一昨年のレベルまでは回復していない。
		その他レジャー施設【イベントホール】（職員）	競争相手の様子	・どこのイベントホールも土日以外の利用促進に力を注いでおり、基本料金を大幅に崩しても受注するという企業もある。
		その他サービス【クリーニング】（経営者）	販売量の動き	・熱暑に加えオリンピックが開催されるなど、外出を控えさせる要因がそろったということもあり、実績は引き続き伸び悩んでいる。
		住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・収益用不動産、マンション、一戸建等、分譲事業用地の購入意欲は相変わらず強い。
		住宅販売会社（総務担当）	来客数の動き	・展示場の来場者数は減少傾向ではあるが、客の契約率がローン金利の先高感等で上昇傾向であり、全体としては現状維持となっている。
		その他住宅【展示場】（従業員）	お客様の様子	・来場者アンケートの内容をみると、1年以内に建築を計画している来場者の比率に変動はなく、目立った動きもない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑とオリンピックの影響で、入出が少ない状況であった。特にオリンピックで日本勢が活躍するほど、外出しない人が増え、買物時間は必要最低限になっていた。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・オリンピック開催後、残暑の影響もあり、秋物の動きは鈍く、来客数は減少している。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・猛暑、オリンピック等の影響もあるかもしれないが、来客数の減少が際立った。クリアランスもスタート当初は好調だったものの、その後は前年を下回る厳しい商況が続いた。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・天候に恵まれた割にはレジャー関係が昨年並みにとどまり、夏商材が一部昨年より上向いたものの、全体としての業績は昨年と比較して良くなったとはいえない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・原油高が進み、消費財なども高騰しているため、客の消費意欲もなえている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・売上高の伸びが8月から鈍化している。業界各社も同様の推移を示しており、オリンピックの影響だけでも言い切れず、不透明な状況にある。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・前年は大型の研修団体が受注できたが、本年はそれに該当する大規模なグループの受注ができなかった。一時、景気が上向きの実感があったが、現在は一進一退という感じである。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宴会は順調に受注できているが、夏休みに入ってから宿泊が急に落ち込んだ。特に盆休み期間は例年になく悪く、オリンピックによる旅行需要の低迷が影響している。
		都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・昨年のSARSの反動で、今年の夏休みは海外旅行が増加していることや、猛暑による大型テーマパークへの出控え、更にはオリンピックのテレビ観戦による出控えなどにより、夏休み期間に入って、宿泊・レストランとも急激に来客数が減っている。
		都市型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・宿泊については、海外旅行が過去最高だったことや、オリンピックの開催、プラズマテレビなどの家電購入の影響で、個人旅行の利用が昨年に比べ減少した。宴会はほぼ横ばいであるが、飲食店利用の前年比マイナス幅が大きくなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・バスや電車を利用する客が多い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・オリンピック開催があったため、夜間の客が減少した。
		通信会社（経営者）	来客数の動き	・盆の休暇が分散しているのか、顧客の動きが読みづらく、休業日を設けにくい。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・平日の来客数が大きく減少しており、他の同業者では大きな値引きをしている。
	悪くなっている	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・中元は前倒し傾向が続いていることもあり、予想通り大きく失速した。売上比重の大きな婦人服飾は、猛暑の影響もあり前年を大きく割り込んでいる。外商に関しては、宝石、高級時計といった従来好調であった商品に陰りがみえる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・猛暑でガソリンの販売量は伸びているが、仕入価格が上がってきており、それを客に転嫁できない状況が続いている。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・客の予算規模が縮小し、開発案件がなくなった。
		競輪場（職員）	単価の動き	・購買単価が、3か月前は25,000円前後であったものが、今月は20,000円となり、遊興費に回す余裕がますますなくなっていると感じる。
企業動向関連	良くなっている	金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注が増加しており、現在の生産ライン、人員のまま、残業、休日出勤を行うことで対応している。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・オリンピックの影響もあり、液晶テレビ、DVDレコーダー等のAV機器が非常に好調な伸びを示している。
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・オリンピックを境に収束していくとみられていたスポット需要が、引き続き好調である。大画面・液晶テレビを中心としたメーカーの出稿が相次いでいる。
	やや良くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は引き続き堅調に推移しており、人材不足が深刻になるほどの状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（営業担当）	それ以外	・家具の配送をしているが、客の様子をみると、以前は必要な物だけを購入している感じであったが、最近では模様替えのために買い替える傾向がみられる。
		不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大阪中心部、大阪府下住宅地の仕入価格が昨年と比べて高くなっている。各不動産業者が今後の需要増加を見込んで、仕入を活性化させている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・指導先の中小企業経営者をみると、景気回復を実感してはいないものの、景気の見込みについて希望的に観測する経営者が多くなった。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・毎日暑い日が続く、週末の天気が安定して、外出する機会が増えていることなどから、夏物の消費が順調に進んでいる。店頭での欠品に伴うスポットの商品納品依頼が急増している。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・設備投資の見積が多くなり、少しずつ受注が決まってきた。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・全体的に売上は昨年より少し良いが、一般家庭向け商品の伸びが悪かった。猛暑の影響で、めんつゆ以外の調味料全体が苦戦している。
		金属製品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格は確実に下がってきているが、受注価格が思うように上がらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社はドイツから主要パーツを取り寄せて機器を製造しているため、ユーロ高が足を引っ張り、当社の価格競争力が弱まっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・精密機器、電子機器等については非常に忙しい状況であり、開発についても積極的である。
		その他製造業〔履物〕（団体役員）	受注量や販売量の動き	・靴業界においては安値や輸入品の増加がみられ、消費者も特別な物以外購入しない。
		輸送業（営業所長）	受注価格や販売価格の動き	・空港内および一般倉庫の荷動きが鈍化傾向にあり、8月になっても大きな変化はなかった。また、新規の仕事の見積もきているが、荷主側のコスト削減が大きく、なかなか交渉が進まない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建機部品製造業等の中小企業や、通信機器販売業等の一部の企業においては販売額が増加したが、多くの中小企業において販売額が減少している。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・建売、マンション用地の仕入競争が激しくなっている。
	やや悪くなっている	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年は盆休みが例年に比べ分散型となったため、2週間にわたり閑散期が続く、来客数や売上が減少した。
	悪くなっている	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込チラシが激減している。
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・仕事の依頼は増えているが、派遣登録者が激減している。スタッフ側も強気であり、マッチングが難しい状況である。
		求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・高校野球の応援で全国から人が集まり、それに対応した飲食・販売のパート・アルバイト募集があったが、盆明け後は涼しくなったこともあり、下降気味である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月に入り求人をする会社が増えた。また、来春の新卒セミナーに参加する企業が昨年より多くなり、活発な動きをみせるなど、中小企業が少し元気になってきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は10か月連続して前年比で増加を続けている。業種でみると、製造業やサービス業の求人数が大きく、中でも電気機械器具製造業の伸びが際立っている。また、企業の設備投資も進んでおり、それに伴って請負や派遣求人も若干増えている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数の減少が止まらない状況であり、求人企業の中には、昨年と同じような条件で求人を行っても、今年は集まってくれないという話もある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・物流関係の企業によると、国内での物の動きはないが、IT関連企業による輸出と、産業の空洞化に伴う製造業全般の輸入が、ともに好調であるとのことである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職担当)	周辺企業の様子	・大手・中堅企業の内定時期がずれ込んだことが影響し、中小企業の求人が、昨年同時期に比べ夏休み中でも少し増加した。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	求職者数の動き	・派遣スタッフなどへの求人に対する求職者の反応があまり良くない。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良くなっている	一般レストラン (店長)	お客様の様子	・お盆当たりから3世代にわたる客が増え、気軽にお金を使っている。
		通信会社(総務 担当)	販売量の動き	・海外旅行者が増加しており、景気は良くなっていると感じている。
	やや良くなっている	コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・来店客数については、前月の前年比108%に比較して今月は95.8%と低迷しているが、客単価については前月の100.2%の横ばい状態から、今月は108.7%と大幅に回復し、全店舗でも前年比100%を達成しており、上向きの傾向にある。
		コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・恵まれた天候にもかかわらずビールの売上は減少したが、来店客が大幅に増加したことにより、売上を支えた。
		自動車備品販売 店(経営者)	単価の動き	・客数自体はそれほどの変化はないが、当社の取り扱うタイヤやナビゲーションなどの主力商品に動きがあり、売上全体を押し上げている。
		その他専門店 〔スポーツ〕 (店長)	単価の動き	・売上や客数の増加には繋がっていないが、客単価が若干増加している。 ・単価は高くとも商品が良ければ買うという傾向は続いている。
		その他専門店 〔カメラ〕(地 域ブロック長)	販売量の動き	・社会的には若干の業績向上が続いているが、コストを抑える事による利益増のため、手放しに喜べない。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・大会物や集会旅行などが増える時期であり、先月調査時より売上が伸びている。来客数も、3か月前よりはやや増加傾向にある。
		パチンコ店(総 務担当)	来客数の動き	・酷暑ということもあり、集客数の増加が目立った。
	住宅販売会社 (経理担当)	販売量の動き	・新規発売物件のモデルルームへの来場者数は増加しており、契約戸数もほぼ予定通り推移している。	
	変わらない	百貨店(売場担 当)	お客様の様子	・秋物発売当時は売行きが良かったが、厳しい残暑のため売上が今一つ伸びなかった。しかし、前年よりも売上は増加した。
		百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・猛暑の影響により、例年に比べ秋物などプロパー商品の動きが悪く、それに伴いブーツの売上が昨年比の8割程度になっている。 ・3月の商品がかなり売れ残っているため単価を落として販売しており、売上は落ちている。
		スーパー(店 長)	単価の動き	・消費者の買い回り傾向が強く、来客数は増加しているが、客単価の低下が依然続いたままで、回復の兆しがみえない。
		スーパー(店 長)	単価の動き	・販売単価は前年比約93%の単価で推移しているが、販売点数、客数についてはいずれも103%前後で推移しており、変化は見受けられない。
		スーパー(店舗 運営担当)	販売量の動き	・来店客数は前年の103%であるが、競争店との買い回り客の増加により、買上点数の増加はみられない。売上実績としては、前年の98.69%である。
スーパー(管理 担当)		販売量の動き	・近所に業務用スーパーなども開店したが、だいぶ落ち着いてきた。販売量もさほど変化が見られない。	
スーパー(経理 担当)		販売量の動き	・猛暑の影響でアイスクリームなどの利益率の低い商品の売上は増加したが、利益率の高い商品の売上は落ち込んだ。	
コンビニ(エリ ア担当)		販売量の動き	・7月に比べ8月は飲料などの売上が伸びず、全体としては売上が落ちている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・7月は、猛暑のためエアコンなどの季節商品が好調で全体でも堅調だったが、8月は、季節商品が大幅に鈍化、テレビに関してはオリンピック需要で好調ではあるものの、パソコン関連商品や冷蔵庫などの白物家電商品が苦戦したため、全体として若干の減少で推移した。
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・販売台数や金額からみて、OA商品は低調、AV商品は堅調、白物商品はやや回復傾向という状況である。全体的に前年並みという状況で推移している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・8月の販売量は、前年に比94%と大変厳しい状況である。来店者数も前年と比較し、大幅に減少している。
		乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・依然として小型乗用車の受注は好調だが、大型乗用車の方も若干だが上向きである。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新規の来店客数が増えない状況が続いている。土・日展示会においても拠点当り6組前後の状況が続いている。
		住関連専門店（広告企画担当）	お客様の様子	・顧客の検討期間が非常に短くなってきている。景気の良いときには、検討期間が長くなる傾向があり、「価格上昇の前に」という思いが汲み取れていた。逆に短くなっているということは、「まだまだ価格が下がっていている」と顧客が思っているからだと推測している。
		一般レストラン（店長）	単価の動き	・客数は前年並みだが、先月から発売を再開した牛肉鉄板焼メニューのせいか、客単価が大幅に上がってきている。BSEのため仕入れが高騰しているので売価も高くせざるをえなかったが、思いのほか動いている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・高校総体の効果を期待していたが、実際は予想をはるかに下回り、売上は前年を下回った。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・受注量は増加しているが、競争が激しいために単価が低下し、利益が減少している。
		旅行代理店（営業担当）	単価の動き	・ここ3か月、ほぼ継続して、高額商品が売れている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・7月では前年と比べて売上が上回ったが、8月に入ってからオリンピックや台風の影響で、一時的な要素ではあるが、売上はマイナスになっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夏休みにもかかわらず、観光客が例年より少なかった。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・加入契約数がここ数か月の実績から低下したままであり、かつ解約も増加しており、純増加数が低迷したまま推移しており、増加の兆しが見えない。
		その他レジャー施設[温泉センター]（営業企画担当）	来客数の動き	・日帰り温泉部門は、盆が土日に重なったことから総じて休暇期間が短くなったこと、及び気温が高かった理由からか客数が伸び悩み、前年比2桁ダウンと8月度としては最低の状況だった。一方、温泉ホテル部門は前年比微増の客数と売上を確保して明暗が大きく分かれた。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・販売量は増加しているが、個々の仕事の規模が小さいため、全体的に景気が上向いているとはいえない。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・今月の来場者数は、過去2か月間より若干上向いているが3か月前の状況とほぼ変わらない。顧客の反応はあまり芳しくなく、成約金額なども抑え気味な状況が続いている。
	やや悪くなっている	百貨店（購買担当）	お客様の様子	・先月の終わりから盆前までは、食料品や婦人服を中心にセール品の動きが好調であったが、盆過ぎに例年通りセール品から秋物へ移行したところ、急激に客足が鈍化し売上はかなり厳しい。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・酷暑と台風などの影響で、客数が大幅に減少している上、秋物の動きも非常に悪い。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・昨年と比べて売上は増加しているが、セールは好調でもプロパーは前年の7割と低迷している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前半は猛暑の影響で売上が減少していたが、20日以降は涼しくなった影響で需要が増加し、若干持ち直してきている。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・猛暑の影響で夏物処分は順調であるが、秋物の売行きが悪い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・猛暑のため客数が伸び悩んでおり、パーゲンでのTシャツは売れているが、プロパー商品では苦戦している。	
		家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・オリンピックの影響で映像関係の売上は伸びたものの、売上構成で大きいパソコンの不振が響き、売上が若干落ちている。	
		乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・前年対比で新車の販売台数が90%、中古車が80%の状態である。	
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑とオリンピックで客足が遠のいた。昨年に比べ客数が二桁近く落ちている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・ビジネス客の予約は堅調に入ってくるが、団体予約が非常に少ない。	
		ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・平日と土日の来客数の格差が顕著に現れており、平日がかなり減少している。	
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・客単価の低下及び購買量が減少している。	
		設計事務所（職員）	販売量の動き	・最近まで休耕田へのマンションの建設・販売ラッシュがあり、売れ行きも好調であったが、現在では、建設・販売ラッシュも一段落といった感じであり、少しでも割高感がすれば売れ残っているものもある。	
		悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・来街者数は変わらないが、入店者は減少しており、客単価も減少している。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・盆明け以降の来客の様子は特売品目当てで、未だ秋冬物は購入していない。
タクシー運転手	来客数の動き		・地元での高校総体開催、オリンピックのため客数が大幅に減少し、売上も落ちている。		
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・取引先が好調で、他社を含めどこまでの増産に対応できるか確認してきており、最大生産能力での受注になりそうである。	
		化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・先月と大きな変化はなく、生産量、出荷量共に増加傾向にある。社内は全般に高稼働率であるが、デフレ圧力に加え物流費・原燃料費などの高騰により利益が上がりにくい状況である。	
	やや良くなっている	金属製品製造業（総務担当）	取引先の様子	・受注量は非常に好調で、さばき切れない状況であり、嬉しい悲鳴である。	
		輸送業（統括）	受注量や販売量の動き	・8月はお盆休みが長かったにもかかわらず、6、7月に比べて出荷量が増加しており、収入の伸びがある。	
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・夏らしい夏だったので農作物の状態が良い。	
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・顧客の声で明るいものも多く、また取り扱う荷物の量も増加しつつある。	
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続している。単価引下げ要請は厳しいが、量産効果で増益基調を確保する。設備投資にも積極姿勢である。	
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・今まで設備投資など何もしなかった企業が、徐々に更新しようとする動きが出てきた。	
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・取引先の状況などによると、多少、金融関係の貸出しが緩やかになった傾向がある。	
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・求人が出稿が増加傾向にある。		
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自社は様々な製品を製造しているが、製品によっては生産率が一桁に減少した物がある一方、稼働率が100%以上に上昇した物もあったので、差し引きで見たとこ、あまり良い伸び率ではない。	
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上高は前年比100%以上と順調に推移しているが、収益は横ばいである。販売価格の改善が難しい状況で苦心している。	
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産水準も飛び込み受注があるなど堅調な水準であり、時間外労働も夏休みの関係で多い水準で推移している。	
鉄鋼業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・鋼材需要が堅調さを継続している。国内においては、自動車、造船、電機を中心とした製造業向けなどが、国外においては、自動車、家電などの東南アジア向けが堅調さを継続させている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他製造業 [スポーツ用品] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・オリンピックの関係もあり一部関連商品には好調なものもあるが、全体的にスポーツ用品の国内の消費動向は低調なままで、受注量は伸び悩んでいる。
		建設業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・価格面でますます競争が激しくなり、正当な利益が確保できない現状がある。
		通信業(営業企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・法人向け通信サービスの受注状況は、データ利用に関して専用線からVPN方式への移行が進み、音声についてもIP化が広がりつつあり新しいサービスの受注量が増えているが、利益は減少する傾向は変わらない。
		通信業(社員)	受注量や販売量の動き	・既存顧客の受注継続分は昨年並み程度に達成できそうだが、全体的に横ばいで傾向している。
		会計事務所(職員)	取引先の様子	・売上高、利益ともに目立って良かったり、悪かったりしているものは、どの業種も見当たらない。例年、夏場は大抵の業種の売上が低迷する時期だが、それなりになんとか凌いでいる状況である。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・求人に対する民間企業への期待は若年者の求職依頼に確実に現れている。また、短時間で希望に合致した人材を確保できる認知が高まっており、求人数は衰える気配が無い。
		新聞社[求人広告] (広告営業担当)	求職者数の動き	・自社主催の9月新卒向け合同企業説明会への参加企業が、対前年比10社以上増加している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・市の誘致によるコールセンター創業に伴う大量求人などから、新規求人が大幅に増加している。
		民間職業紹介機関(職員)	求人数の動き	・これまで専ら地元での採用支援を行ってきたが、支援をするその企業の県外支店や営業所などの求人依頼も複数の会社から入るようになった。 ・当方は地元以外に拠点もないことを承知で依頼をしていくということは、それだけ人員不足に悩んでいる証拠であると考えている。
		学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人件数も順調に伸びており、派遣要員確保の動きが目立つ。
	変わらない	新聞社[求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・特に中小企業を中心とした取引先周辺企業で、この夏のボーナスが出ていない、もしくは、時間外手当がもらえない企業が前年より目立っている。
		新聞社[求人広告] (担当者)	求人数の動き	・求人件数は増加しているが、活性化しているわけではない。
		職業安定所(雇用開発担当)	求人数の動き	・2年ぶりに新規求人が前年同月比で減少したが、求職者数の減少により有効求人倍率は高水準で推移している。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・求人は増加しているが、求職者数の減少は見られない。
		民間職業紹介機関(職員)	雇用形態の様子	・売上高経常利益率が約15%の地場優良企業でも正社員を増やそうとしていない。パート・派遣社員で仕事量の増加をこなしている。
		学校[短期大学] (就職担当)	求人数の動き	・介護職などの一部専門職の求人はコンスタントにあるが、一般職を含めたそれ以外の求人の受案件数は、相変わらず伸び悩んでいる。地域経済が好転につながるような地場の良い話題は決して聞かれないわけではないが、人件費の抑制やコストダウンに成功した各企業は慎重姿勢を崩さず、採用活動を活性化させるまでには至っていない。
	やや悪くなっている	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・電子器具製造業における人員整理、大型共同店舗閉鎖における人員整理のため求職者が大幅に増加する見込みである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	-	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客の購買意欲が向上しており、売上が徐々に上がってきている。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・既存店売上高の前年比を3か月前と比較すると、101.3%が102.4%と、1.1ポイント良くなっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客単価はあまり伸びていないが、今年の夏は暑く、来客数は予想を上回った。他の競合店の動きをみても、同じような傾向がうかがえる。
	変わらない	タクシー運転手	お客様の様子	・夏祭りや花火大会等の入出は多かった。しかし、昨年、一昨年に比べると、身近な娯楽で済ませている様子がうかがえる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・中元商戦と盆の売上はまずまずであったが、盆以降にくっと冷え込んだ感があり、景気は変わらないという感じである。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・例年8月は、帰省客や観光客等が、夏物バーゲン品を買っていくが、今年はそうした客が非常に少なく、苦戦している。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・高額品が伸び悩んでいる。例えば、進物用の風呂敷はこれまで3,000円が一般的だったが、今は1,000円から2,000円の商品が中心となっている。また、台所用品も多層構造の鍋に代表されるような、高額商品の売行きが非常に苦戦している。こうした傾向は依然続いている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・8月前半は好調に推移したが、後半から来客数が大幅に減少した。期間全体の来客数は、わずかにプラスで推移しているが、客単価や買い上げ点数などが減少した。衝動買いが減少し、必要な物以外は買わないという状況である。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・日用雑貨や賞味期限の長いラーメン等の食料品などは、特売日等の単価の安い時に買いだめする傾向が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・気温は高かったものの、天候が悪かったせいか、来客数、売上とも伸びなかった。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・夏物バーゲンは盛り上がりには欠け、売上高は前年実績を下回った。来客数、販売量は3か月前と変わらなかったが、猛暑の影響で単価の低い薄手のカットソーが良く売れ、その分客単価は下がった。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・オリンピック需要を期待したが、思ったほどの伸びはなかった。
		家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・先月までは来客数が多少上昇してきていたが、現在は前年並みの来客数にとどまっている。しかし、冷蔵庫、パソコンといった商品に目を向ける客が増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・6、7月は新型車の導入効果により、販売量が増えたが、8月に入り頭打ちとなった。
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・夏休み、オリンピックと売上の増加を期待したが、例年とあまり変わらなかった。		
都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・単価が安ければ販売数は伸びるが、トータルの売上高は変わらない。		
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今年の春先以降、旅行需要はまずまず回復してきており、今月も順調に推移した。夏休みの家族旅行も昨年より多かった。特に北海道への直行便が就航したことにより、北海道への人気が高かった。		
観光名所（経営者）	来客数の動き	・台風の影響により、予約のキャンセルが続出した。		
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・2、3か月前と比較すると、今月の来客数は順調に推移したが、繁盛期のお盆や月末、週末の来客数は少なかった。客は料金の安いことを目当てに来場するため、サービス券を発行して、客の囲い込みを図っている。		
設計事務所（所長）	販売量の動き	・マンションに売れ残りが出ている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	競争相手の様子	・郊外の大型ショッピングセンターにシネコンがオープンした影響でファミリー層や若年層を中心に、かなりの数の客が郊外へ流れた。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・月初から台風に見舞われたことに加え、週末にかけて雨が多かったため、来客数が非常に少なかった。また、エアコン、薄型テレビや飲料関係に消費が回っている分、衣料関係が悪くなっているように感じる。
		タクシー運転手	単価の動き	・盆休みの前までは通常どおりだったが、盆を過ぎてから客が減った。特に夜に飲みに出ている客が少なく、乗っても近場が多いため、単価が伸びず、売上は全体的に低い。
		その他住宅〔不動産〕（経営者）	競争相手の様子	・不動産仲介手数料が減少したことや、賃貸物件の借り手が少なくなってきた。
	悪くなっている	一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・猛暑・台風の影響やお盆の休みが短かったため、売上は悪かった。
企業動向関連	良く なっている	木材製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・リストラなどの影響により、国内全体の生産量が低下している中で、対応力に企業格差が生じている。こうした状況下で、当社は受注量が増加しており、予想どおりの受注量を確保することができた。
		通信業（営業担当）	それ以外	・パソコンやLAN設備の増設など、インフラ整備の受注が最近増えてきている。
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・猛暑の影響で、店頭販売は非常に良いが、売れるのはパーゲン商品等が中心で、通常価格の商品が少し悪いいため、全体的にかさ上げされていない。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・この夏の猛暑で、清涼飲料、ビールなどの夏型商品が、前年比で10%近く伸びたと聞いているが、夏物衣料のパーゲンセールは、専門店、量販店とも、相変わらず低調のようである。
		公認会計士	取引先の様子	・取引先企業の毎月の資産表などをみていると、ここ6か月間くらい、まったく変わらない状況が続いている。中には悪化している業種もあり、まだまだ景気が良くなってきているという実感は、数字の上では出ていない。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前は非常に景気は上向きの感があり、受注が大変多かったが、最近は案件が少なく、見積、受注とも減少している。また単価も厳しく、景気が後退したような感じを受ける。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	それ以外	・公共工事の減少と受注競争の激化に伴い、入札でダンピングが発生し、契約見送りとなったケースがある。
雇用関連	良く なっている	民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・採用の面接が増加した。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・最近、工場の新設に伴い、求人が増加した。また、全体的に派遣のニーズが非常に増えている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	雇用形態の様子	・中途採用関係が多様化し、受注が増加してきている。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で11か月連続して増加した。情報通信業では、企業進出に伴う大口求人がみられた。医療、社会福祉、介護事業では小規模のグループホーム、訪問介護等、老人福祉施設からの求人が増加している。	
	変わらない	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は若干増加を続けているものの、相変わらず派遣、請負業等からの契約期間付きの求人が伸びており、正社員の求人の増加はみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はパート求人の減少が大きく、前年同月比で4.1ポイントのマイナスとなった。新規求職者、有効求職者ともに、前年同月比もマイナスとなっており、有効求人倍率は0.52倍と変化はみられない。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・短大の採用者数は例年並みであるが、4年制大学の採用者数が極めて低調である。
やや悪くなっている	-	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	-	-	-

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が前年から悪かったが、だんだん前年並みになってきた。客数は依然として増加しているが客単価についても回復している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・猛暑ということもあり、クーラーが効いているため朝からの客が結構多かった。今まで客数が単価とともに下がっていたが、今月は夏物の処分、特にギフトに関して来店客数が多いという傾向がみられた。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・夏物衣料の動きが好調であった。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・アイス、ソフトドリンク、ビール等の夏場商品の売行きが良くて売上増に結び付いた。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・夏物商品が好調である。特に雑貨物でセーター、ブラウス、帽子、パラソル等小物類の売上が前年比10%以上伸びている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・リフォームに関連する売上が増えてきた。
		家電量販店（総務担当）	単価の動き	・大型の薄型テレビや乾燥洗濯機等の高額商品の動きが良い。
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・季節的な影響でエアコンが売れるとかオリンピックでテレビが売れるとかはあるが、反面パソコンなど売れなくなっている商品もある。全体的には良くなってきている。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・九州新幹線開業効果が継続している。夏休みに入り家族連れや旅行者が多く、客数、売上も増加している。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・お盆等の家族行事があったということもあるが、予約の状況、販売量の動き、客数も増えてきている。	
	都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・客の宿泊料金に対する希望の幅が少しずつ広がっている。	
	設計事務所（所長）	販売量の動き	・官公庁の設計委託の工事が、少しずつであるが出ている。	
	変わらない	商店街（組合職員）	それ以外	・9日間の抽選券付きセールとイベントを行った。猛暑のため来街者は今一つだったが抽選券の発券数は予定以上に消化。売上増で効果は出た。しかし商店街の厳しさは変わらない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・盆だからといって特に買いためするような様子もなく落ち着いた状況である。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・福岡市天神地区の百貨店売上は、7月は猛暑による夏物商戦の好調やセールの効果もあり若干上向いたが、8月はオリンピックや台風の影響もあり苦戦。前年割れを見込んでいる。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・中元ギフトは、一品単価の減少はないが、受注個数の減少傾向がみられる。法人については、下げ止まった感はあるものの、一般のギフトは伸び悩んでいる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・猛暑で特に衣料品が苦戦をしている。客は余分なものに消費をしない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今年の4月以降、客数、一点単価は昨年を維持しているが、1人当たり買上点数は前年比10%減が続いている。
スーパー（総務担当）		単価の動き	・平均客単価が若干下がり気味である。特に夏物衣料あたりは、前半戦は良かったが後半戦は伸び悩んだ。	
コンビニ（エリア担当）		販売量の動き	・猛暑だからといって、買上点数が向上しているわけではなく、例年通りである。	
コンビニ（販売促進担当）		販売量の動き	・売上は前年の98%前後で推移しているが、今月は台風の影響によって離島関係の販売が1週間停止した。おまけに停電等もあり、パンや弁当等、製造できなかった分の販売量の減少や、小売店の休業による返品もあり、今月に関しては前年の2.5%減という結果に終わった。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・暑い日が続いているので、夏物バーゲンをお盆過ぎまで開催し、同時に秋物の新作を立ち上げた。いつもはお盆を過ぎると秋物に順調に移行するが、今年はいつまでも夏物しか売れなかった。かなり安くなったセール品を吟味して1点買いする客も多くみられた。	
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・7月末から液晶テレビ、DVDレコーダー等動きが出ている。オリンピック後もデジタル化への動きがあるため、需要が期待できる。ただエアコン等が減少し、総体的には変わらない。	
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・オリンピックのある月はいつも悪い。高額テレビ等に客の嗜好が流れるため、車にまでは回ってこないからである。	
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・前年並みの販売量を何とか確保するのが今の状況で、販売量が大幅に増えるということはない。	
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は相変わらず少ないが、秋の婚礼家具の動きが出始めた。	
		その他小売〔雑貨卸〕（総務担当）	販売量の動き	・売れてはいるが単価は落ちているため、販売量はなかなか実績が上がらない。	
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月は前年より30万円多く売り上げることができたが、これは営業時間の延長等の影響である。景気の動きとしては変化がない。	
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・景気の動向はあまり良くない。海外旅行は前年に比べ伸びているが、国内は低迷している。	
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・顧客の商品選別の厳しさに変化はなく、なんでも売れるということは依然としてない。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・サマーステイプランで宿泊、施設の集客ともに前年並みに推移している。一方、ゴルフ場は減少している。	
		競輪場（職員）	来客数の動き	・入場者及び発売額が横ばい状態を続けている。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅ローン減税を考慮する客の動きが落ち着きつつある。	
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・猛暑のため来場者数が少なかった。	
		やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・暑い日が続いており、人通りが閑散としている。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では空調設備がなく暑いため、客は来ない。飲食関係の店が潤わず、食材もあまり売れない。
			一般小売店〔茶〕（店長）	来客数の動き	・来客数、購買量、販売量が激減している。良くなる傾向はない。
			百貨店（総務担当）	お客様の様子	・ディナーの時間帯にレストラン街への集客が悪い。特に夜9時以降の客数が低落傾向にある。単価も上がらない状況が続いている。
			百貨店（営業担当）	来客数の動き	・街場への動員が春から更に落ち込んでいる。特に土日の来客減少が顕著である。
			百貨店（営業担当）	単価の動き	・中元ギフトは、1人当たりの買上単価及び受注件数がともに前年割れであり、儀礼的なギフトへの支出に減少傾向がみられる。薄型テレビなど高額商品が動いているが、オリンピックによる一時的特需であり、継続性はない。
百貨店（営業担当）	お客様の様子		・お盆以降は、例年は夏物セールがまだ売れるが、今年には必要なもの以外はいくら安くても買わないという傾向で、総体では非常に苦戦している。		
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き		・猛暑のため、来客数が圧倒的に減っている。それ以上に気にかかるのが、天候に関係なく、昼・夜ともに天神地区全体の来客数が減っていることである。郊外大型店が集客していることに加え、街としての魅力に欠けていることが原因である。		
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き		・商圈全体の売上が落ち込んでいる。		
百貨店（業務担当）	お客様の様子		・購買に慎重という姿勢から、購買欲そのものの減退がみられる。猛暑のため外出を控えているという現象もあり、入店客減もかなり目立っている。		
百貨店（売場担当）	来客数の動き		・上旬は動きが良くなかった。中旬、下旬についても秋物関係はまだ気温が高いので婦人衣料を中心とした衣料品全般の動きが良くない。今月は大型店の市況をみてもあまり良くないという状況である。特に月末に台風がきたので実態としては前年比で10%程のマイナスになる。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前月からの猛暑により清涼飲料やアイスクリームは非常に動きが良かったものの、アテネ五輪景気による薄型テレビや猛暑によるエアコン等の高額品の好調、家庭での料理敬遠から外食化傾向が目立ったことで食品中心のスーパーとしては客数減が目立った。		
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・猛暑やオリンピックのにぎわい等で新車の販売台数がやや鈍っている。客の来場も含めて売上高が伸び悩んでいる。		
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・オリンピックの影響か、来店客数も減っている。		
		その他専門店〔医薬品〕（従業員）	来客数の動き	・先月までは客数は前年に比べ回復しつつあったが、暑さのせいやや減少傾向である。		
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・海外旅行が復活し、国内旅行からシフトしている。しかし韓国ブーム等で単価の安い商品が売れており、売上につながらない。		
		旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・猛暑とオリンピックの影響を受けているのか、申込の量が前年を下回っている。		
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月に入りまずまずであったが、オリンピックの影響で人の動きが悪くなり、タクシーの利用が一転して悪くなった。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・オリンピックや猛暑のせい、皆外に出ない。出ても特定のところだけに行くという傾向にある。		
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月はオリンピックの影響でかなり悪くなった。歓楽街の客が少ない影響で、タクシーも客が非常に少なく、商売になるような状況ではなかった。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・天気の関係か8月の半ば過ぎから極端に客の乗車率が悪くなり、特に夜の客が少なくなった。		
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・8月は例年であれば平日に比べて週末の販売台数が大きく伸びるが、週末イベント企画にもかかわらず販売数が伸びていない。		
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・残暑が厳しいせい客の動きが悪い。		
		美容室（店長）	お客様の様子	・異常な暑さで外出を控えていたという方が多く、去年より更に客数が少ない。		
		悪くなっている		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅販売で販売センターの来客数が猛暑のために激減した。また、再来の客が少ない。
商店街（代表者）	販売量の動き			・来街者も最低であり、人の動きも最低である。		
衣料品専門店（店長）	来客数の動き			・8月は例年客数も売上も落ちるが、今年は特に来客数が少ない。		
衣料品専門店（店長）	販売量の動き			・相変わらず売上は前年比20%減が続いている。		
高級レストラン（経営者）	来客数の動き			・俗に水商売では2月、8月が最も落ち込むといわれる。当店は海岸沿いにあるため8月はあまり悪くなかったが、今年はかなり落ち込んでいる。		
企業動向関連	良く なっている やや良く なっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・盆休み、オリンピックの影響で人の動きが少なく、来客数が極端に落ち込んだ。		
		-	-	-		
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響で焼き鳥屋関係が伸びている。加えて加工メーカー筋も輸入物の原料ストップで国産物に引き合いが強く、総じて好調である。		
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・物件の情報件数は前年の1.5倍程度あるが、見積金額としては昨年とほぼ同じである。大型の商業施設が一段落し小口の物件が増加している。		
		鉄鋼業（経営者）	取引先の様子	・まだ資材発注には至ってないが、秋口にかけて大型の商業施設、IT関連の施設、マンション、病院、新幹線などの物件が動き出すことから、民間建設需要の増加傾向が顕著となっている。		
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体の部分がもう落ち込むのではないかと思っているが、何とか続いている。今月は夏の休暇で休みも多かったが頑張っている。		
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・企業の生存競争の厳しさからか、遊技場の設備投資が非常に活発である。		
		変わらない		一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格が低いままの形で仕事量が増えている。採算がとれない仕事も多く、体質改善を行うことが急務である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費市場は飽和状態であり、新規商品投入やモデルチェンジが消費拡大につながっていない。営業部門も以前に比べて会議を増やしているが、売上には結び付いていない。	
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・特に清涼飲料水の売上が前年に比べ極端に良くなっている。これにより多少の利益確保ができた店が多い。	
	やや悪くなっている	食料品製造業（専務）	受注量や販売量の動き	・暑い日が続き、甘いものが敬遠されている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の全体的な動きが、ここにきてやや鈍くなってきている。特にDVD関連等がだぶついてきた。	
		精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・急激な鋼材の値上がりに対して価格を上げることができない。	
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・7月末から急速に荷動きが悪くなってきた。猛暑のせいか7月が過剰な出荷となり、通常では盆休み前1週間は繁忙期のはずが、閑散としていた。秋物の出荷も遅れており心配している。	
	悪くなっている	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・追加生産を待っていたが、追加はほとんどなかった。電気製品は非常に好調ということであるが、衣料関係、特に紳士服は全く不振であった。	
		建設業（従業員）	それ以外	・公共工事の減少に加え、一般競争入札による参加する会社が増加したため、受注価格が低下した。	
	雇用関連	良くなっている	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求人数は業務請負業を中心に新規求人、有効求人ともに増加傾向にある。一方で、求職者数が減少する中で、紹介件数も減ってきている。しかし、このような中であっても就職件数や就職率は前年を上回っている。
		やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣オーダーの最近のキャンセル分は、他社契約でなく自社採用が多い。欠員補充についても社員への引継ぎが予定される等、社員採用の兆しが出始めている。
求人情報誌製作会社（編集者）			求人数の動き	・当社の取扱求人数は前年比110%で推移している。	
求人情報誌製作会社（総務担当）			求人数の動き	・求人情報企業の掲載数が引き続き上向きである。小社発行の求人フリーペーパーの掲載企業とともに、インターネットでの申込による中途採用も伸びている。新卒採用についても企業の意欲は高まっており、新卒系採用サイトへの参加も順調な伸びがみられる。	
職業安定所（職員）			求人数の動き	・求人数及び求人件数ともに前年及び前月に比べ増加している。業種別では、製造業の求人の増加が目立っている。	
職業安定所（職員）			求人数の動き	・求人の増加を受け、新規求人倍率は3か月連続で前年を上回っている。また、来春卒業予定の高卒求人は、求人件数、求職件数とも前年比1割を超える増加となっている。	
民間職業紹介機関（支店長）			求人数の動き	・求人数の増加が続いており、供給が追いつかない。成約率は落ちるものの、売上高、成約数では前年比2けたの伸びである。	
変わらない		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人に占める請負、派遣の割合が40%を超えている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が伸びていない。また新規求職者も減少傾向にあるものの、その減少はわずかであって有効求職者数自体がなかなか減らない。	
やや悪くなっている		学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・常用採用が非常に少なくなっている。	
悪くなっている	-	-	-		

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	販売量の動き	・店舗への来客数や月間売上高は今年最高水準となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや良くなっている	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・客は依然として単価に敏感であり、財布のひもは固いが、当社では各店舗とも前年同月比107%で順調に集客できている。特に今年は去年よりも観光客の来客が目立っており、最近、レンタカーにGPSが搭載されていることから、評判のある店には地元客が探せないような辺りな場所でも観光客が多く来客するようになっている。
		観光型ホテル（営業担当）	単価の動き	・周辺のホテルも、客室単価が好調に推移している。
	変わらない	百貨店（担当者）	来客数の動き	・この時期に主要となるギフト商品については、客単価は前年同月比で2%増加したものの来客数が4%減少し、売上としては2%の減少となっている。主力の衣料品については、週末ごとの台風の接近により苦戦し、一部の初秋商品は動いたものの絶対額の大きい夏物処分が振るわず、前年同月比で大幅に減少している。景気動向としては難しい月であったが、昨年と比較するにモノレール開通、台風、中元ギフトの月のずれ等、多くの影響与件があり、このことから一概に動向が悪くなっているとは判断しにくい。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・単価の動きがほとんど変わっていない。
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・近くに競合店の出店があり、飲料、酒類等の売上が伸び悩んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・飲料や冷凍の売上が前年同月比で10%以上増加し、来店客数も微増でオリンピックの効果か、夜間、深夜の来客数が増えているが、客1人当たりの購入金額は前年を割っており、必要なものしか購入しない傾向は相変わらずとなっている。
		旅行代理店（経営者）	それ以外	・アテネオリンピックのテレビ鑑賞による出控えや台風発生によるキャンセルが発生し伸び悩んでいる。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・当施設利用者は前年が前年同月比で10%増加したのに対し、今月は更に4.8%増加している。来客者の構成としては、家族連れ、カップルが中心となっており、沖縄の観光は変わらず好調である。
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・来客数が増加する兆しが一向にみられない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・建設業の公的機関からの発注が遅く、景気は鈍くなってきている。
	やや悪くなっている	家電量販店（副店長）	競争相手の様子	・競合店の新規出店により、来客数、売上が大幅に減少している。
		高級レストラン（副支配人）	来客数の動き	・沖縄への入客数は増えているとのことだが、6～8月は中北部のリゾートホテル群周辺に観光客が流れ、那覇市内の飲食業関係の店舗では入りが悪くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅総合展示場やイベント等への来客数が、夏休み期間は例年減少するのだが、今年は極端に減少している。
	悪くなっている			
企業動向関連	良くなっている	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大型量販店のオープンにより、物量が増加している。人の流れが変化しつつある。
	やや良くなっている	不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き	・具体的な内容の問い合わせが増加している。
	変わらない	通信業（従業員）	それ以外	・台風など自然現象に対応するための準備が必要と考えられるものの、現時点では直接影響を受けるものではない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量に大きな増加がみられない。
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	それ以外	・取引先から、資材等の値上げを要求されている。
	悪くなっている	-	-	-
	雇用関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・立て続けに派遣の依頼があり、中には全く予想もしないような新規の問い合わせも出てきている。
	求人情報誌制作会社（営業担当）	周辺企業の様子	・ここ3か月間連続で、求人広告掲載の企業が増加している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人数は3か月前比で14.2%増加している。雇用形態等でみると一般求人は構成比81.4%で、3か月前比で24.7%増加している。パート求人は構成比18.6%で、3か月前比では16.7%減少している。産業別には運輸業、情報通信業、製造業、サービス業、医療・福祉の各産業で増加となっている。有効求人倍率は0.46倍で3か月前比では0.04ポイント上昇している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・契約社員を含め、県内企業の求人数が増加している。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・前年同月よりも求人数の増加がみられる。
	変わらない			
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-